

総務文教常任委員会

日 時 令和6年9月10日（火）午前10時から

場 所 全員協議会室

議 題

1 付託案件（4件）

- (1) 議案第67号 射水市市税条例の一部改正について
- (2) 議案第72号 字の区域の変更及び廃止について
- (3) 議案第74号 動産の取得について
- (4) 議案第78号 射水市立学校設置条例の一部改正について

2 報告事項（3件）

- (1) 第2期射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度進捗状況報告書について
(企画管理部 政策推進課 資料1)
- (2) 第5次射水市行財政改革集中改革プラン 令和6年度改訂版（案）について
(企画管理部 未来創造課 資料1)
- (3) 休日の学校部活動の地域移行モデル事業について
(教育委員会 学校教育課 生涯学習・スポーツ課 資料1)

3 その他

企画管理部政策推進課 資料1
9月定例会 総務文教常任委員会
令和6年9月10日

第2期
射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(デジタル田園都市国家構想の実現に向けて)
～選ばれるまち快適安心居住都市 いみず～
令和5年度進捗状況報告書

令和6年8月
射 水 市

目次

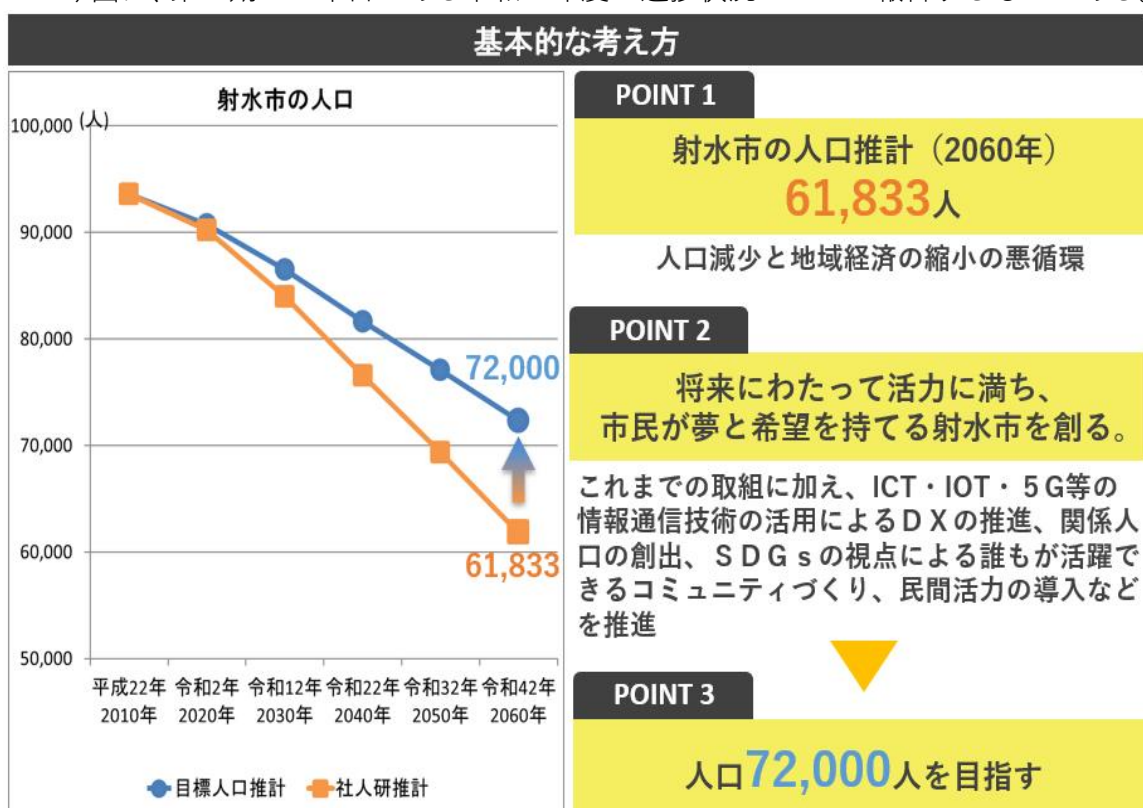
1	報告書策定の趣旨	1
2	人口の状況	2
3	評価の方法	3
4	数値目標及び重要業績評価指標の進捗状況	4
5	令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の効果検証	12
6	総合戦略における数値目標及び重要業績評価指標	18

1 報告書策定の趣旨

本市では、平成27年10月に人口減少の克服と地域活性化による地方創生を強力に進め、将来にわたって活力に満ち、市民が夢と希望を持てる射水市を創るため、「射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定した。令和元年度には第1期の検証等を踏まえ、第2期総合戦略（令和2年度～令和6年度）を新たに策定している。

総合戦略は、4つの基本目標にそれぞれ数値目標を、各施策には重要業績評価指標（KPI）を設定しており、毎年度、射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において、施策の効果検証等を行い、必要に応じて総合戦略の見直しを行うこととしている。

今回は、第2期の4年目である令和5年度の進捗状況について報告するものである。



基本目標
1

結婚・出産・子育て・子どもの学びの
環境づくり

基本目標
2

地域のしごとづくり

基本目標
3

市の魅力を内外に発信し、
新しい人の流れづくり

基本目標
4

安全で安心して暮らせる
時代に合ったまちづくり

2 人口の状況

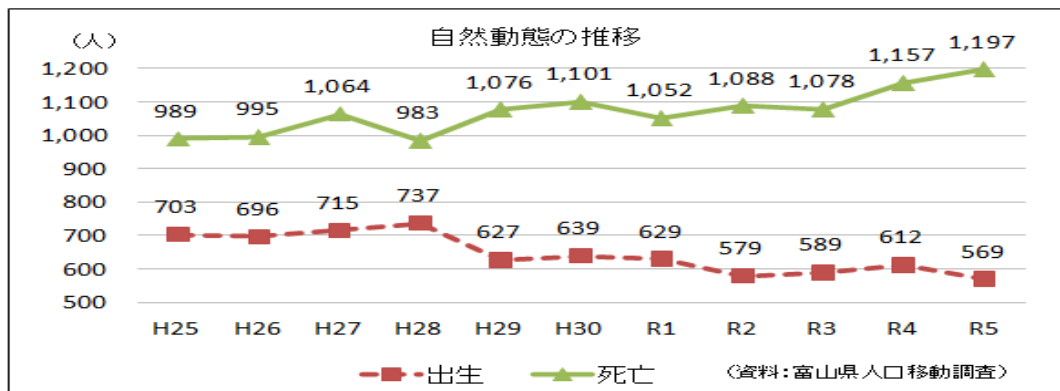
(1) 人口の現状

令和5年10月1日現在の本市の総人口は89,319人で、前年と比較して578人、0.64パーセントの減となった。目標人口89,511人を192人下回っており、前年と比較してその差は大きくなっている。



(2) 自然動態

① 令和5年の出生者数は569人で、前年と比べ43人減少した。死亡者数は1,197人で、前年と比べ40人増加し、自然動態は628人のマイナスとなった。

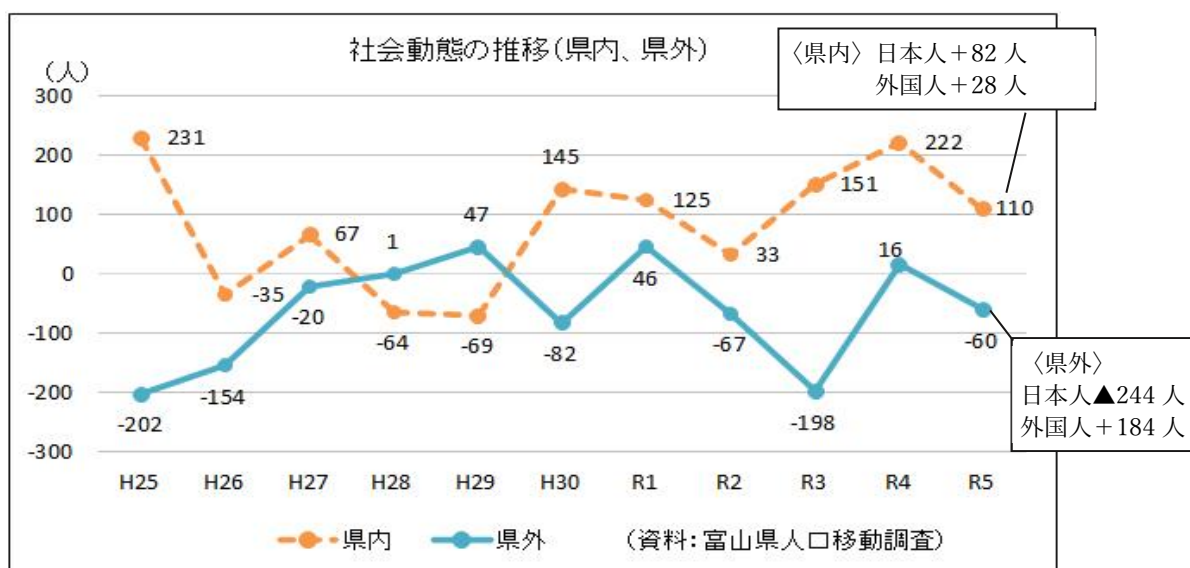
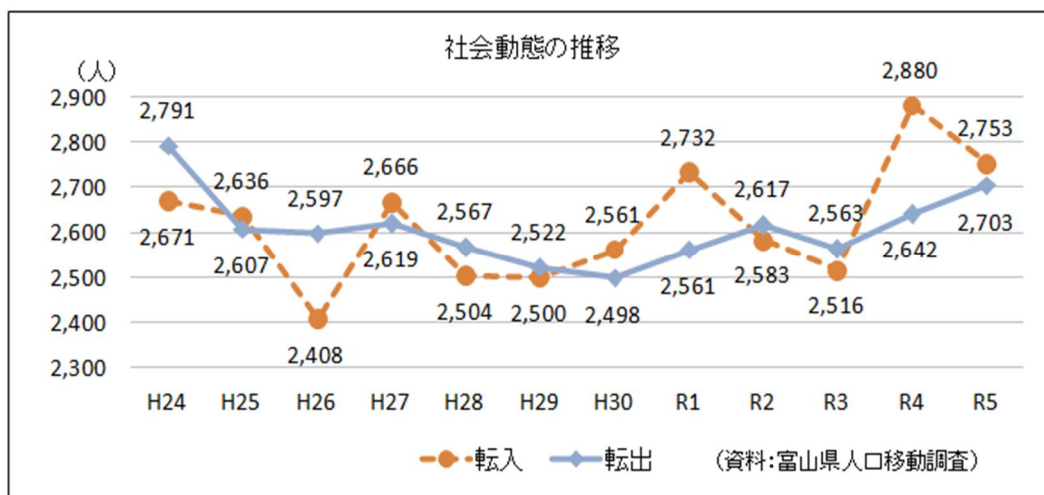


② 令和4年の合計特殊出生率は1.63であり、前年から0.05ポイント上昇した。前年に引き続き国及び県の数値よりも上回っている。



(3) 社会動態

令和5年の転入者数は2,753人で、転出者数の2,703人を上回り、社会動態は50人のプラスとなった。内訳としては、日本人は162人の転出超過、外国人は212人の転入超過であり、日本人の県内移動は前年と比較して減少しているものの、日本人の県外転出者数は依然として増加傾向にある。



3 評価の方法

第2期射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況を客観的に検証するため、数値目標及び重要業績評価指標（KPI）を次の5段階で評価を行う。

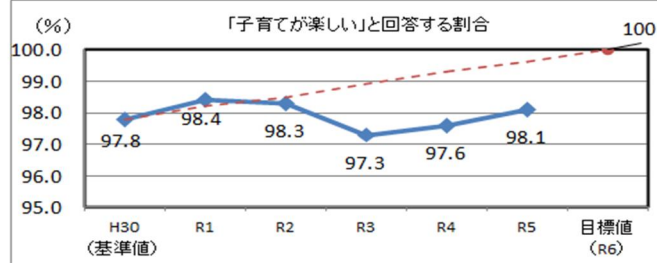
- (1) 達成 …… 最終年度の目標値を達成している。
- (2) 順調 …… 目標値に対して基準値からの進捗率が83%以上
- (3) 概ね順調 …… 目標値に対して基準値からの進捗率が41.5%以上 83%未満
- (4) 維持 …… 目標値に対して基準値からの進捗率が41.5%未満
- (5) 遅れ …… 基準値を下回っている。

4 数値目標及び重要業績評価指標の進捗状況

基本目標1 結婚・出産・子育て・子どもの学びの環境づくり

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
「子育てが楽しい」と回答する割合	97.8%	98.1%	100%

進捗度
維持



<主な取組及び成果>

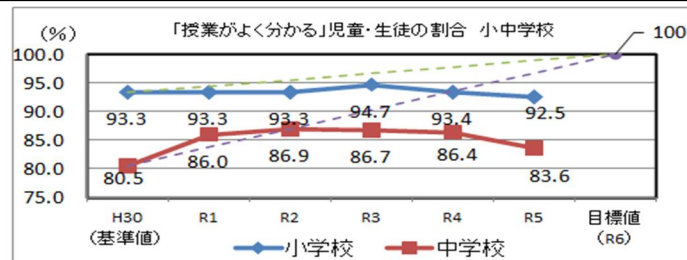
- 1 平成29年度に子ども子育て総合支援センターを開設し、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない相談・支援を行うことで、安心して子育てできる体制を整えている。
- 2 令和5年1月から新たに「伴走型相談支援事業」を実施し、これまでの切れ目のない支援体制を拡充している。
- 3 産後うつ予防と母親の交流の場づくりを目的とした「いみずっ子Babyの会」を開催し、産後サポート体制を強化した。

<今後の取組>

- 1 令和6年4月に設置された「こども家庭センター」において、母子保健分野と児童福祉分野とのより一層の連携強化を図り、切れ目のない子育て支援を行う。
- 2 外出困難な産後の早期に、産後うつの方に対して心理士と保健師が同行訪問をし、本人や家族への支援を行う。
- 3 すべての妊産婦や子育て家庭に寄り添い、伴走型相談支援事業を引き続き実施する。

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
「授業がよく分かる」児童・生徒の割合	小 93.3%	小 92.5%	小 100%
	中 80.5%	中 83.6%	中 100%

進捗度
維持



<主な取組及び成果>

- 1 授業において、解決までの見通しをもたせる課題設定や展開の工夫等を示した射水トライアル3点セット(射水スタンダード～授業のABC～、授業研究協議ステージアップ、授業力向上のちよいテク)を意識した実践が浸透してきた。
- 2 小学校第3学年の希望者を対象に、各校で5名の学習指導員が週1回(年間27回程)、算数の学力補充を目的とした放課後学習を行う「小学生学び応援塾」を5校で実施し、つまづき箇所の強化を図った。

<今後の取組>

- 1 計画的なICT活用等の研修会の実施及びICT支援員等人的な支援の充実を図るとともに、各校で実践されたICTを活用した取組のデータベースの活用を促す。
- 2 個々の児童生徒の学力差に対応した指導の推進を図るため、ICT機器等を積極的に活用し、個に応じた学びと協働的な学びを一層推進する。
- 3 児童生徒の自己肯定感を高めることによる学習意欲の喚起について継続的に取り組む。

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

進捗度	達成	順調	概ね順調	維持	遅れ
件数	1	0	2	3	9

※小学校、中学校で区別されているものは分けて計上

KPI		基準値 (平成30年度)	実績 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)	進捗
1	男女出会いイベント数	4 件	4 件	8 件	維持
2	休日保育実施保育園数	9 園	9 園	10 園	維持
3	子育て支援センター(市内9か所)の年間利用者数	50,122 人	29,850 人	55,000 人	遅れ
4	新 射水市子育て支援セン R2 ター利用者満足度	(基準値R1) 89.0 %	98.0 %	100 %	概ね順調
5	新 子育て情報ちやいる.com R5 アプリのインストール数	729 件	1,741 件	2,000 件	概ね順調
6	新 赤ちゃんの駅設置箇所数	37 箇所	38 箇所	45 箇所	維持
7	男性の育児休業取得率	18.9 %	49.1 %	20.0 %	達成
8	3歳6か月児健康診査の 受診率	99.2 %	98.7 %	100 %	遅れ
9	家庭学習の1日当たり時間が 「10分間×学年」以上の児童・ 生徒の割合	(小学校)88.2 %	(小学校)82.3 %	(小学校)100 %	遅れ
		(中学校)68.3 %	(中学校)56.7 %	(中学校)100 %	遅れ
10	地域の行事に参加してい る児童・生徒の割合	(小学校)79.3 %	(小学校)69.9 %	増加	遅れ
		(中学校)61.2 %	(中学校)47.5 %	増加	遅れ
11	不登校児童・生徒数	(小学校)32 人	(小学校)88 人	減少	遅れ
		(中学校)63 人	(中学校)125 人	減少	遅れ
12	家庭教育に関する講座・ 学習会の年間参加者数	994 人	641 人	1,100 人	遅れ

※新…第2期総合戦略策定時に新たに設定したもの

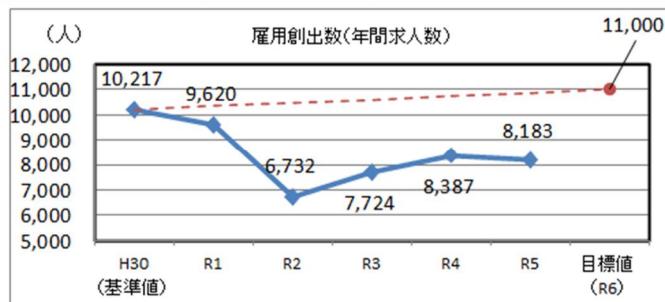
※新 R2、新 R5…各年度改訂時に新たに設定したもの

- 「男女出会いイベント数」については、婚活サポーターズクラブ主催のイベントや市が助成し民間が主催するイベントを 4 回開催したところ、15 組のカップルが成立した。
- 「子育て支援センター（市内9か所）の年間利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、利用者の受入体制の見直しを図ったことや利用者自身の意識変化により前年と比較して増加している。
- 「不登校児童・生徒数」については、小・中学校とも増加しており、家族関係や家庭環境に起因するなど、複雑なケースが増加している。学級に入りづらい児童生徒が安心して学ぶことのできる学校内の居場所として、5校に設置した校内教育支援センター並びに支援員の活動の充実を図る。
- 「家庭教育に関する講座・学習会の年間参加者数」については、いみず親学びスクールや家庭教育支援スキルアップ研修会においても参加者が減少しており、特に子育て井戸端会議については、全小学校で実施していた就学時検診にあわせて開催していたが、検診の開催方法変更に伴い実施場所が8校へと縮小されたため、参加者が昨年の約6割まで減少した。今後は、より多くの保護者が気軽に参加できるよう開催方法の見直しを図る。

基本目標2 地域のしごとづくり

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
雇用創出数（年間求人数）	10,217人	8,183人	11,000人

進捗度
遅れ



<主な取組及び成果>

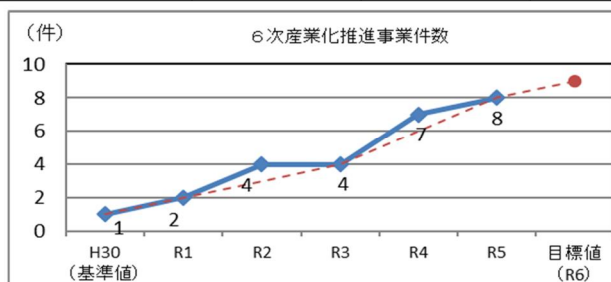
- 全国的に有効求人倍率は上昇傾向にあり、富山県及び高岡管内の有効求人倍率は全国平均を上回っているが、コロナ前の水準には回復していない。
※高岡管内有効求人倍率：R1年度1.85、R2年度1.26、R3年度1.56、R4年度1.66、R5年度1.58（富山県1.44、全国平均1.29）
- 市内企業のテレワーク環境等の整備促進を図り、遠隔勤務など、新しい雇用形態への取組を支援した。
- 雇用維持、新規学卒者を主体とした若年労働者の確保、失業者への雇用機会の創出のため、射水市内企業が採用動画を作成する際にかかった経費の一部を補助した。

<今後の取組>

- 商工団体、ハローワーク及び市で構成する雇用対策推進協議会が実施する雇用対策事業を引き続き支援するとともに、市内高等教育機関の学生を中心に組織されるT-Engineと連携し、新たな雇用確保に取り組む。

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
6次産業化推進事業件数（累計）	1件	8件	9件

進捗度
順調



<主な取組及び成果>

- とやま呉西圏域ローカルフードプラットフォーム（LFP）と連携し、規格外品のえだまめを有効活用して、洋菓子やスープ等の新商品を開発した。

<今後の取組>

- 富山6次産業化サポートセンターによる、専門的な指導助言を積極的に活用し、6次産業化を推進する。
- 6次産業化による新商品開発等に向け、国県の補助事業を積極的に活用する。

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

進捗度	達成	順調	概ね順調	維持	遅れ
件数	2	0	2	2	4

KPI	基準値 (平成30年度)	実績 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)	進捗
13 市内企業団地分譲率	97.6 %	97.1 %	100 %	遅れ
14 創業支援事業補助金年間 利用件数	15 件	24 件	20 件	達成
15 産学官金連携による共同 研究の年間件数	14 件	6 件	15 件	遅れ
16 新 射水ブランド商品開発等支援補 助金を活用した延べ件数	1 件	3 件	7 件	維持
17 新 養殖サクラマスの年間出 荷数	17,200 尾/年	12,750 尾/年	40,000 尾/年	遅れ
18 新 IT、IoTを活用して生産性向上 に取り組む事業者の割合	— %	22.5 %	30.0 %	概ね順調
19 新 R2 テレワークを実施している 企業数	(基準値R2) — 件	48 件	増加	達成
20 新 長時間労働の削減に取り 組む事業者の割合	56.3 %	61.5 %	65.0 %	概ね順調
21 中小企業退職共済加入者 数	3,759 人	3,780 人	4,200 人	維持
22 人材確保充足数	1,601 件	1,133 件	1,650 件	遅れ

※新 R2…令和2年度改訂時に新たに設定したもの

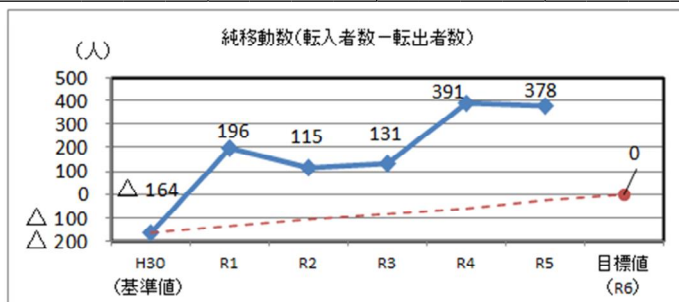
- 「市内企業団地分譲率」は、令和5年4月からの沖塚原企業団地（約9.5ha）の分譲開始により一時的に市内全体の分譲率は低下しているが、令和5年度中に県内外の企業3社と契約を締結しており、沖塚原企業団地における分譲率はすでに40.4%となっている。
- 「産学官金連携による共同研究の年間件数」は、昨年度と比較して2件増加したが、コロナ禍以前と比較すると回復しきれていない。引き続き、呉西圏域連携事業である「ものづくり開発・経営支援セミナー＆相談会」を開催し、企業が研究機関等へ相談できる場を提供し、共同研究・開発の促進やものづくり開発人材の育成へつなげる。
- 「養殖サクラマスの年間出荷数」は、昨年度と比較して約1.2倍に増加した。これは陸上養殖を停止して海上養殖へ一本化することで養殖技術が向上し、サクラマスの品質が向上したことや死亡率が低下したことによると考えられる。
- 「人材確保充足数」については、求人が求職を大幅に上回って推移し、人員不足が深刻な状況にある。射水市雇用対策推進協議会では令和5年度より求人採用活動支援事業を開始した。これは企業が雇用維持や新規学卒者等の若年労働者の確保や失業者への雇用機会の創出を目的として採用動画を作成した場合の経費の一部について補助を行うものであり、15社からの申請があった。

基本目標3 市の魅力を内外に発信し、新しい人の流れづくり

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
純移動数（転入者数－転出者数）	△ 164人	378人	0人(均衡)

※直近5年間の累計

進捗度
達成



<主な取組及び成果>

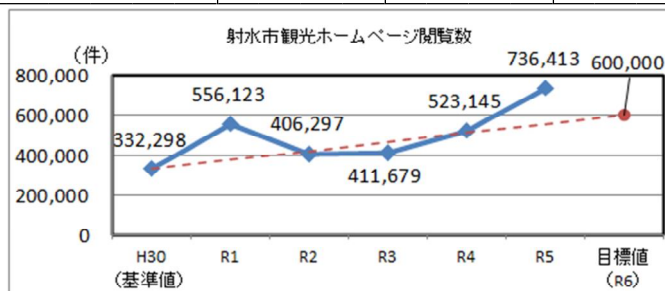
- 1 移住体験ツアーやオンラインセミナーの開催による移住検討者への情報発信やいみず住まい等応援事業補助金の新設による市外からの転入者の定住の促進を図った。

<今後の取組>

- 1 技能実習生など外国人の転入が多いことから、多言語対応や地域との繋がりを大切にする取組を進め、外国人にとっても住みよいまちづくりを進める。
- 2 若者の定住やUIターン促進に一層努めるとともに、多くの人に本市を訪れてもらえるような施策を様々な分野で展開していく。
- 3 引き続き本市へのUIターンを促進するため、県外の高等教育機関に在学する学生の市内企業への就職活動等に係る交通費の一部を支援する「学生UIターン応援事業」に引き続き取り組む。

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
射水市観光ホームページ閲覧数	332,298件	736,413件	600,000件

進捗度
達成



<主な取組及び成果>

- 1 新たな観光商品として「内川ナイトクルーズ」を造成するなど、観光地としての魅力向上に取り組んだ。
- 2 能登半島地震後、「北陸応援割」と合わせて「射水寄ってかれクーポン事業」を実施した。
- 3 24時間応答可能なAIチャットボットの導入や9言語(日本語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語(簡体)、中国語(繁体)、韓国語、タイ語)対応の観光サイトJFM (JAPAN in JAPAN for Municipality)の射水市紹介ページにアクセスできるバナー画像を設置した。

<今後の取組>

- 1 メディアの露出に対応した内容を掲載する等、効果的な発信を行い、アクセス数を伸ばす。

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

進捗度	達成	順調	概ね順調	維持	遅れ
件数	6	2	0	1	8

KPI	基準値 (平成30年度)	実績 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)	進捗
23 新 移住施策を活用して市外から移住した延べ人数	88 人	198 人	100 人	達成
24 新 指定宅地における住宅建築率	41.9 %	49.3 %	50.0 %	順調
25 住宅相談窓口年間相談数	36 件	150 件	45 件	達成
26 空き家の有効活用支援延べ件数 (サテライトオフィス、シェアオフィスを含む。)(累計)	1 件	9 件	3 件	達成
27 新 空き家情報バンクへの登録件数	36 件	46 件	40 件	達成
28 ロケ地(川の駅)来訪者数	45,835 人/年	41,119 人/年	50,000 人/年	遅れ
29 海王丸パーク周辺入込数	1,767,400 人/年	1,145,570 人/年	1,850,000 人/年	遅れ
30 新 継続的に射水市にふるさと納税をした人数	295 人/年	358 人/年	320 人/年	達成
31 新 市LINE公式アカウント友だち数	(基準値R2) — 人	23,647 人	25,000 人	順調
32 新 フットボールセンターの年間利用者数	— 人/年	76,696 人/年	60,000 人/年	達成
33 コミュニティバス等乗車人数	418,572 人/年	389,613 人/年	450,000 人/年	遅れ
34 万葉線乗車人数	1,192,041 人/年	1,070,665 人/年	1,200,000 人/年	遅れ
35 新 小杉駅、越中大門駅の乗車人数	1,557,708 人/年	1,541,450 人/年	1,642,500 人/年	遅れ
36 市内企業に就職したい学生の割合	50.7 %	43.1 %	70.0 %	遅れ
37 学生訪問支援事業の参加学生の満足度	97.2 %	97.0 %	98.5 %	遅れ
38 新 まちづくりに参画した学生・生徒の数	(基準値R4) 437 人	451 人	503 人	維持
39 新 R5 学びの地域拠点の設置数	(基準値R4) — か所	0 か所	2 か所	遅れ

※新…第2期総合戦略策定時に新たに設定したもの

※新 R2、新 R5…各年度改訂時に新たに設定したもの

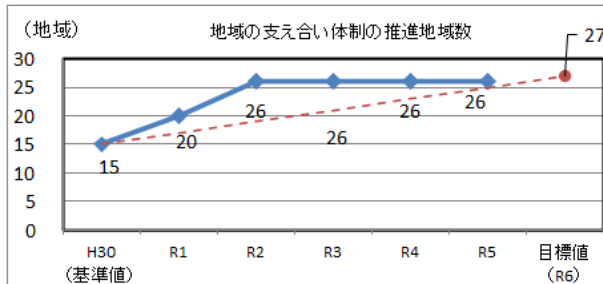
○「コミュニティバス等乗車人数」は、新型コロナウイルス感染症が5類移行したことに加え、利用者の声を反映したダイヤ改正により回復傾向にある。令和6年3月からAIオンデマンドバス「のーと射水」の本格運行を市南東エリアにて開始しており、引き続きエリア拡大に向けて取り組んでいく。

○「市内企業に就職したい学生の割合」は、例年実施している「いみず企業見学バスツアー」の参加学生のアンケート結果を基に算出しており、昨年と比べ大幅に減となっているのは参加学生が増加し、調査母数が大きくなった影響による。令和5年度では、コロナ禍では実施できなかった福祉コース（病院・保育園・介護施設）も実現でき、多くの学生等が参加した。学生にとっては職業観等の醸成に寄与し、企業にとっては人材確保へと繋がることから、今後もニーズを反映させながら継続していく。

基本目標4 安全で安心して暮らせる時代に合ったまちづくり

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
地域の支え合い体制の推進地域数	15地域	26地域	27地域

進捗度
順調



<主な取組及び成果>

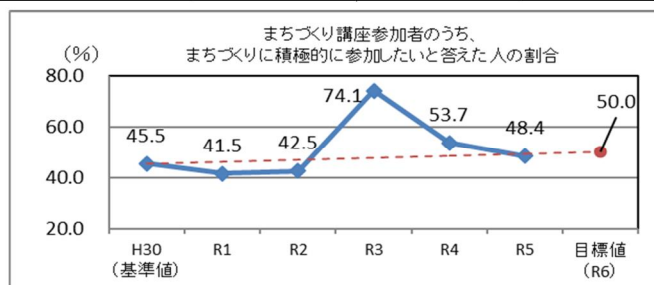
- 1 高齢者が地域において自立した日常生活を営むことができるよう、地域振興会単位で住民主体の多様な地域活動の創出及び地域の支え合い体制の整備を推進した。

<今後の取組>

- 1 生活支援コーディネーター(第1層[市]、第2層[地域包括支援センター]、第3層[地域振興会])による生活支援や介護予防サービスなど重層的な支援体制を充実する。
- 2 市内全域での事業実施及び地域での住民主体の多様な支え合い活動が、より充実するよう支援する。
- 3 未整備地区に対して、体制整備に向けた支援を継続する。

数値目標	基準値 (H30)	実績値 (R5)	目標値 (R6)
まちづくり講座参加者のうち、まちづくりに積極的に参加したいと答えた人の割合	45.5%	48.4%	50.0%

進捗度
概ね順調



<主な取組及び成果>

- 1 「射水まちづくりプラットフォーム～まちプラ～」を実施し、参加者が地域振興会や地域に根差した活動をしている団体の活動を体験したり、歴史的な建造物をめぐるなど、まちづくりに参画する市民の裾野を広げるよう努めた。
- 2 外部講師を活用して「射水まちづくりセミナー」を実施し、実践的なファシリテーション講座やゲーム形式でまちづくりを体験する講座を開催し、参加者のスキルアップを図った。

<今後の取組>

- 1 引き続き民間活力を導入し、協働のまちづくりへの理解を広め、参画意識を高めていく事業を実施する。
- 2 地域に対する愛着を深め、まちづくりに積極的に参加しようとする機運の醸成に努める。また、参加者アンケートを実施し、事業効果の検証を行う。

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

進捗度	達成	順調	概ね順調	維持	遅れ
件数	2	2	6	3	4

KPI	基準値 (平成30年度)	実績 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)	進捗
40 総合患者満足度数	4.13 点	3.94 点	4.15 点	遅れ
41 防災士取得者数	109 人	173 人	162 人	達成
42 消防団員数	707 人	654 人	757 人	遅れ
43 新 一人／日当たりのごみの排出量	(基準値H27) 1,117 g	1,042 g	1,005 g	概ね順調
44 新 リサイクル率	(基準値R2) 20.9 %	19.5 %	22.1 %	遅れ
45 まちづくり講座受講者数	22 人/年	138 人/年	200 人/年	概ね順調
46 新 事業運営を担う中核的法人数	0 法人	1 法人	2 法人	概ね順調
47 元気な高齢者の割合	82.0 %	80.6 %	78.0 %	維持
48 新 R3 セミナー受講者の満足度	(基準値R3) — %	66.7 %	80.0 %	順調
49 新 R3 女性キャリアアップ応援補助金年間利用件数	(基準値R3) — 件	11 件	20 件	概ね順調
50 新 多文化こどもサポートセンターの年間参加者数	176 人	194 人	200 人	概ね順調
51 見直しする公共施設数	32 件	42 件	42 件	達成
52 ICカードの多目的利用業務数	4 業務	7 業務	10 業務	概ね順調
53 新 IoT活用延べ業務数	— 業務	6 業務	15 業務	維持
54 新 RPA活用延べ業務数	— 業務	18 業務	20 業務	順調
55 新 R2 テレワーク活用延べ件数	(基準値R1) — 件	123 件	360 件	維持
56 呉西圏域で連携して取り組む事業数	32 件	31 件	33 件	遅れ

※新…第2期総合戦略策定時に新たに設定したもの

※新 R2、新 R3…各年度改訂時に新たに設定したもの

○「消防団員数」は、退団数は減少しているものの新規団員数も減少しているため、全体として減となっている。消防団の力向上モデル事業を活用し、消防団員姿の「いみず雫」の LINE スタンプを作成・配信して消防団の知名度をアップし、若手消防団員の加入を促進する。

○「リサイクル率」は、前年と比較して 2.4%の減となっており、資源回収の担い手不足による団体数、実施回数等の減少及び一部民間リサイクル事業者の活動状況の影響によると考えられる。市一般廃棄物処理実施計画、分別収集計画に基づく各種施策の検証を行い、見直しや新規施策を検討・実施し、取組を推進する。

○「呉西圏域で連携して取り組む事業数」については、新規連携事業提案募集で挙げた 3 事業について、6 市担当者で事業化に向けた検討会を開催したが、事業化に至らなかった。令和 6 年度は、別の 3 つの新規事業（防災備品の共同運用、防災士の連携、産後ケア広域化）の事業化について検討する。

5 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の効果検証

令和5年度に国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業は、以下のとおりです。

①高齢者と観光客が融合するまち「射水」創造事業

事業費 29,799千円
交付金額 14,899千円

＜事業概要＞R1～R5

①観光客の玄関口である北陸新幹線新高岡駅から新湊地区、そしてあいの風とやま鉄道小杉駅を結ぶ周遊バス等を運行し、交流人口の拡大によるにぎわいの創出を図る。

②新湊地区にある複数の観光地と既存商店街とを結ぶ移動手段として、電動カートや電気自動車の導入を図り、観光客の利便性向上とともに、地域の高齢者の買い物の足とすることで、商店街の復興と活性化を図る。また、地域資源の掘り起こしによる新商品開発による販路拡大や創業支援による新規出店を促すため、キッチンカーの活用を図る。

③本市の玄関口である小杉駅から観光客を新湊地区に誘導する方策を検討する。

KPI		H30	R4	R5
商店街等新規出店支援事業補助金交付件数(件)(累計)	目標値		10件	13件
	実績値	0件	12件	18件
内川(川の駅)来訪者数(人)	目標値		45,970人	46,370人
	実績値	44,370人	38,201人	41,119人
あいの風とやま鉄道小杉駅乗車数(一日当たり)(人)	目標値		3,208人	3,213人
	実績値	3,188人	3,020人	3,178人
元気な高齢者の割合(要介護認定等を受けていない者の割合)(%)	目標値		81.0%	81.0%
	実績値	81.0%	81.2%	80.8%

＜主な取組及び成果＞

- 前年度実施の検証結果を踏まえ、県内最大の交通拠点である富山駅との接続を強化するため富山駅とベイエリアを結ぶ既存路線(ぶりにバス)の増便運行を行った。利用者数は増便分で1便あたり4.4人であった。
- 前年度実施した電気三輪自動車を活用した新たな地域公共交通「べいぐるん」及び観光モビリティ「べいかーと」「べいとらいく」の実証運行の検証結果を踏まえ、運行範囲や予約方法等を変更して再度実証運行を実施したところ、べいぐるんについて地域住民の平日利用が2割増加するなど日常的な利用が促進された。また、キッチンカーの利活用については、商工会議所と連携し、キッチンカーの周知や、創業・事業者支援に取り組んだ。加えて、首都圏や大阪での電車広告等、情報発信に取り組んだ。

＜今後の取組＞

これまでの取組を継続して地元商店街の産業振興と高齢者にやさしいまちづくりに繋げていく。

令和6年度からは、これまでの取組を発展させた「誰もが夢をカタチにできる人流イノベーションシティ射水創造プロジェクト」に着手し、空き家や空き店舗を活用した新たな活動の場の創出、魅力的な町並みの形成、新たな人の流れを生み出す地域交通の実証などに取り組む。

②多様な産業・人材の参画による地域全体が潤う「稼げる」観光地づくり推進事業

事業費 2,292千円
交付金額 1,146千円

＜事業概要＞R3～R7

「数」以上に「質」を重視し、何度でも訪れたいくなる「選ばれ続ける観光地」としても魅力を向上させることで、コアな富山ファン・リピーターの獲得や消費単価・滞在日数の増を図るため、(公社)とやま観光推進機構を中核とし、県内15市町村や地域の多様な産業・人材が参画した地域主導による「稼げる」観光地づくりを推進する。平成28年5月に日本版DMO候補法人として登録された(公社)とやま観光推進機構を中心に、官民一体となって取り組むもの。

- アフターコロナを見据えた「稼げる」観光地づくり
- 北陸新幹線の敦賀開業を見据えた戦略的プロモーションの展開
- 「日台観光サミット」「世界で最も美しい湾クラブ世界総会」の開催実績を活かした国際観光交流の推進
- 美術館等における魅力の磨き上げと新たな魅力・価値の創造等による誘客促進

KPI		R2	R4※	R7
観光消費額単価(宿泊・日帰り(円/人回))	目標値		9,360円	11,900円
	実績値	8,880円	10,838円	
観光客入込数(実数)(千人)	目標値		11,104千人	13,724千人
	実績値	11,039千人	13,926千人	
日本橋富山館来館者のうち観光交流サロンでのコンシェルジュ対応者数(人)	目標値		30,000人	40,000人
	実績値	15,000人	14,992人	
県立美術館等の年間来館者数(人)	目標値		470,000人	920,000人
	実績値	400,000人	759,257人	

※実績値の公表が翌年度の秋以降となるため前々年度実績

＜主な取組及び成果＞

とやま観光推進機構が企画するWEBサイト(VISIT富山県)の旅行商品として、「内川ナイトクルーズ」や「新湊漁港昼セリ見学」等の日帰りツアーを販売し市内への誘客を図った。また、射水市公式フォトアンバサダーでもあるイナガキヤスト氏の内川等の写真も活用し、市内の魅力の発信を行った。

＜今後の取組＞

事業期間の2年延長が承認されて、今後も引き続き、とやま観光推進機構を中心に、連携自治体・市町村観光協会・観光事業者等と協力の上、各種観光振興施策に取り組む。

③「みらい」へつなぐ持続可能な富山型グローバル交通ネットワーク形成事業

事業費 839千円
 交付金額 419千円

＜事業概要＞R1～R5

●地域公共交通ネットワークの確保・充実

県民・観光客等の地域公共交通の利用が進むよう、県・市町村・交通事業者が連携を図り、バスの乗継案内・運行情報（遅延情報）や沿線の観光情報の情報提供（多言語化対応）、運行間隔の短縮のための増便、条件不利地域（過疎地域等の中山間地域）での利用活性に向けた調査・実証運行等を行うなど、ニーズに応じた交通サービスの提供や接続利便性の向上により地域公共交通ネットワークの再構築を進める。

●県内外との広域交通ネットワークの確保・充実

県内や県外との周遊機能を高めるため、新幹線駅・拠点駅等と県内観光地・隣県観光地とスムーズに周遊できる広域的な公共交通サービスの充実や、多彩な鉄道・軌道を活かしたツーリズムの活性化に取り組む。

●富山空港の機能の充実

・羽田線の維持・充実、関西、九州・沖縄などへの新規路線やチャーター便の開拓など、国内航空ネットワークの充実、及び国際路線の維持・拡充に取り組む。

・空港の利便性の向上や活性化を促進、及び空港内の施設の適切な維持管理、航空機の運航に対する安定性の確保に努める。

KPI		H30	R4※	R5
鉄軌道・バスの利用率（県民1人当たりの年間利用回数）（回）	目標値		48.15回	48.70回
	実績値	46.00回	39.70回	
観光客の県内交通機関の満足度（％）	目標値		59.8％	61.8％
	実績値	50.8％	57.2％	
農林漁業等体験者数（県内における棚田オーナー、観光農園、地引網等の体験活動に参加した延べ人数）（人）	目標値		75,697人	77,572人
	実績値	68,199人	39,206人	
富山空港国内・国際路線（チャーター便含む）の利用者数（人）	目標値		590,725人	600,725人
	実績値	573,120人	251,509人	

※実績値の公表が翌年度の秋以降となるため前々年度実績

＜主な取組及び成果＞

令和元年度に県・交通事業者と連携して開発したバスロケーションシステム「とやまロケーションシステム」の維持管理を行い、連携自治体・交通事業者、沿線の商店・観光施設などと協力のうえ、利用者の利便性向上に努めた。

＜今後の取組＞

時刻表データの更新等システムの維持管理を適切に実施し、観光客等への情報提供や乗りやすく便利な交通環境を維持する。

令和6年度より新たな県連携事業「地域の「投資」と「参画」による駅を中心とした交通まちづくり事業」として、引き続き、地域公共交通ネットワークの確保・向上に向けた取組を実施する。

④開疎な脱炭素コミュニティ構築プロジェクト

事業費 4,119千円
交付金額 2,059千円

＜事業概要＞R4～R6

- 県・市町村が一体となりカーボンニュートラルをより総合的・分野横断的に推進するため、「富山県カーボンニュートラル推進本部」を設置する。
- 小水力発電の導入可能性を調査・公開し、民間事業者等による新規導入を促進し、地域活性化を図る。
- とやまアルミコンソーシアムと連携して、アルミリサイクル研究開発支援や規制緩和、企業課題解決に向けた取組への支援を実施し、アルミ産業の成長力強化を図る。
- 温室効果ガス排出を削減するため、過度な自家用車依存から脱却した地域公共交通ネットワークの再編を支援する。
- 国境を越えた課題である気候変動問題に対応するため、北東アジア地域の自治体と連携して、温暖化状況モニタリングのスキームづくりや中高生の人材育成に取り組む。
- 海王丸財団や「美しい富山湾クラブ」関連事業者のイベント・会議等実施に対して支援し、子どもたちが水資源をはじめとする自然に触れ、その保全のために取り組むことについて学ぶ機会を提供する。

KPI		R3	R4※	R6
エネルギーの消費量の2013年度比の削減率(%)	目標値		7.8%	11.1%
	実績値	6.3%	15.8%	
県内市町村での地球温暖化対策推進法実行計画(区域施策編)の策定率(%)	目標値		40.0%	86.6%
	実績値	26.7%	53.3%	
一般廃棄物循環利用率(%)	目標値		26.4%	27.2%
	実績値	26.0%	25.2%	
北東アジア地域の中高生を対象とした、環境保全に取り組む人材を育成する事業の参加人数(人)	目標値		919人	979人
	実績値	889人	946人	

※実績値の公表が翌年度の秋以降となるため前々年度実績

＜主な取組及び成果＞

- ・県と連携し、「世界で最も美しい湾クラブ」加盟記念モニュメントが設置されている海王丸パークでのイベント時に(公財)伏木富山港・海王丸財団が主になり、カーボンニュートラルの取組についてパネル展示を行い、理念の普及に繋げた。
- ・県と15市町村が共同で「とやまカーボンニュートラルポータルサイト」を設置し、カーボンニュートラルについて一元的な情報発信に取り組んだ。

⑤Toyama Digital Transformation Project

事業費 1,981千円
 交付金額 990千円

＜事業概要＞R4～R8

●県、市町村でシームレスなデータ活用基盤を構築するとともに、オープンデータサイトの拡充や人流データ分析ツールの導入により、企業等がデータを活用できる環境を整備し、様々な地域課題の解決を図るとともに、県内産業の成長につなげる。

●関係人口の増加や官民連携のさらなる推進を図るため、対象となり得る者のニーズや属性を的確に把握するためのデータマネジメント・プラットフォームの構築や、UI・UXの向上による訴求力の向上に取り組む。

●ビックデータ等のデジタル技術を活用して地域課題解決を図る実証事業を行い、県内企業や市町村への事例を横展開し、データ活用の有効性等の周知や新しいビジネスなどの創出を図る。

●小中学生を対象としたプログラミング教育や県内大学と連携したデータサイエンス教育、DXセミナー等、産官学連携した人材育成の取組を進める。スマートフォンの操作方法等を教えることができるボランティアを県内各地で養成し、デジタルデバйдを解消することで、暮らしの向上を図る。

KPI		R3	R4※	R8
データ利活用による地域課題解決の取組み件数(件)	目標値		10件	50件
	実績値	0件	9件	
データ利活用を推進する官民連携の組織に参加する企業・団体数(団体)	目標値		60団体	300団体
	実績値	0団体	0団体	
県立大学でのDX関連教育を受けた社会人数(人)	目標値		50人	170人
	実績値	20人	75人	
県立大学におけるDXに関する相談受付件数(件)	目標値		5件	25件
	実績値	0件	5件	

※実績値の公表が翌年度の秋以降となるため前々年度実績

＜主な取組及び成果＞

センサーを活用したIoT利活用事業として、排水路やため池の水位や降積雪量の常時観測を実施している。遠隔からの危険水位の検知や降雪量の計測の実現により、現地確認に係る職員の業務の効率化が図られた。また、リアルタイムなデータ取得により、浸水想定区域への伝達や除雪車出動要請など災害等への迅速な対応が可能となり、市民サービスの向上につながっている。

＜今後の取組＞

引き続き、IoT利活用事業を拡充しながら、県のデータ連携基盤との連携を見据え、オープンデータカタログサイトの構築にも取り組み、データ利活用の推進につなげる。

⑥スポーツ施設を核とした地域活性化事業(拠点整備タイプ)

事業費 1,576,132千円
 交付金額 660,554千円

＜事業概要＞R2～R3

スポーツ合宿誘致への需要に対応するため、県西部唯一の人工芝グラウンド2面及び屋根付きフットサル場を整備し、スポーツ合宿誘致を通じた稼ぐ地域づくりを進めるとともに、既存イベント等を通じて近隣施設と連携し、より多くの人々を呼び込み、「射水の一大スポーツエリア スポーツ合宿等で選ばれるまち 射水」として魅力創出を図る。

整備に当たっては、地元ケーブルテレビ局と連携・協力し、ローカル5G環境を整備するとともに、AIカメラを設置した。AIカメラは自動で、撮影・収録・編集・配信を同時に行い、YouTubeなどを通して世界中に大容量動画をシームレスに同時配信することで国内はもとより、世界中の有名な指導者からの遠隔指導が可能となるほか、同時に臨場感溢れるライブ映像を提供する。

また、IoTを活用した運動解析プログラムを提供し、現地での指導環境を充実させることに加え、ローカル5G環境が整ったホテルとの連携により撮影した映像によるプレー分析をホテルで行うことを可能にした。

さらに、近接する県内有数のスポーツトレーニング施設であり、温水プール・アリーナ・各種専門的なトレーニングマシンを備えた海竜スポーツランドを開放することで、身体能力の向上を図るための複合的なトレーニングメニュー等の提供が可能となり、スポーツ合宿のニーズに対応できる環境を整える。

KPI		R1	R5	R6
フットボールセンターの利用者数(人)	目標値		55,000人	60,000人
	実績値	0人	76,696人	
スポーツ合宿の誘致件数(件)	目標値		25件	30件
	実績値	0件	8件	
全国大会開催数(件)	目標値		2件	3件
	実績値	0件	0件	
総合型地域スポーツクラブ会員加入率 (クラブ入会者数/射水市人口)(%)	目標値		4.95%	5.00%
	実績値	4.80%	4.86%	

＜主な取組及び成果＞

利用者については、前年度から約1万人増の76,696人となり、2年連続で目標値を上回った。
 (R4利用者数:66,814人)

また、多様なスポーツを体験できるイベント「オリスポフェス2023」を開催するなど、賑わい創出に努めた。

＜今後の取組＞

令和6年能登半島地震の影響により、人工芝フィールド2面の利用を停止しているが、スポーツを通じた交流人口創出の核となるフットボールセンターの早期復旧を進める。

また、市内で宿泊施設の開業が進むことから合宿誘致の取組を進める。

6 総合戦略における数値目標及び重要業績評価指標

項 目	新規	数値目標、KPI	基準年度	基準値	目標値 (令和6年度)	目標値の確認方法
基本目標1 結婚・出産・子育て・子どもの学びの環境づくり	数値目標	「子育てが楽しい」と回答する割合	H30	97.8 %	100 %	健診に来た保護者への問診結果
		「授業がよく分かる」児童・生徒の割合	H30	(小)93.3 (中)80.5 %	(小)100 (中)100 %	毎年全小中学校にて実施のアンケート調査結果
結婚に対する支援		男女出会いイベント数	H30	4 件	8 件	婚活サポーターズクラブ主催のイベント及び市が助成し民間が主催するイベントの件数
子育て支援サービス等の充実		休日保育実施保育園数	H30	9 園	10 園	休日保育を実施する保育園の数
		子育て支援センター(市内9か所)の年間利用者数	H30	50,122 人	55,000 人	子育て支援センターの年間利用者数(市内子育て支援センター9か所の利用者の合計値)
	新 R2	射水市子育て支援センター利用者満足度	R1	89.0 %	100 %	利用者アンケートの質問事項として設定(子育て支援センター(キッズポート内)利用者へのアンケート)満足、おおむね満足の割合
	新 R5	子育て情報ちやいる.comアプリのインストール数	H30	729 件	2,000 件	子育て情報ちやいる.comアプリのインストール数(累計)
	新	赤ちゃんの駅設置箇所数	H30	37 箇所	45 箇所	赤ちゃんの駅設置箇所数
男性の育児・家事参加促進		男性の育児休業取得率	H30	18.9 %	20.0 %	毎年3名以上を雇用している中小企業500社に実施するアンケート調査結果
親と子の健康づくりの推進		3歳6か月児健康診査の受診率	H30	99.2 %	100 %	3歳6か月児健康診査の受診率
未来を担う子どもたちの学力定着、たくましい子どもの育成		家庭学習の1日当たり時間が「10分間×学年」以上の児童・生徒の割合	H30	(小)88.2 (中)68.3 %	(小)100 (中)100 %	毎年全小中学校にて実施のアンケート調査結果
郷土愛を育む教育の推進		地域の行事に参加している児童・生徒の割合	H30	(小)79.3 (中)61.2 %	増加	毎年全小中学校にて実施のアンケート調査結果
それぞれの子どもに寄り添った教育の推進		不登校児童・生徒数	H30	(小)32 (中)63 人	減少	毎年全小中学校にて実施のアンケート調査結果
家庭や地域における教育の充実		家庭教育に関する講座・学習会の年間参加者数	H30	994 人	1,100 人	いみず親学びスクール、子育て井戸端会議、家庭教育アドバイザースキルアップ研修会の参加者合計
基本目標2 地域のごとづくり	数値目標	雇用創出数(年間求人数)	H30	10,217 人	11,000 人	ハローワーク高岡管内の年間求人数
		6次産業化推進事業件数(累計)	H30	1 件	9 件	補助事業を活用して6次産業化に取り組んだ事業者数
企業等誘致の推進		市内企業団地分譲率	H30	97.6 %	100 %	市内企業団地分譲率
創業や意欲のある企業への支援		創業支援事業補助金年間利用件数	H30	15 件	20 件	創業支援事業補助金年間利用件数
産学官金連携による共同研究、学術交流の実施		産学官金連携による共同研究の年間件数	H30	14 件/年	15 件/年	共同研究の件数を富山県立大学の地域連携センターから報告
射水ブランド商品開発支援、情報発信	新	射水ブランド商品開発等支援補助金を活用した延べ件数	H30	1 件	7 件	射水ブランド商品開発等支援補助金を活用した延べ件数
6次産業化の推進	新	養殖サクラマスの年間出荷数	H30	17,200 尾/年	40,000 尾/年	堀岡養殖漁業協同組合から報告
情報通信技術の活用	新	IT、IoTを活用して生産性向上に取り組む事業者の割合	H30	— %	30.0 %	毎年3名以上を雇用している中小企業500社に実施するアンケート調査結果(新規に項目を設ける)
	新 R2	テレワークを実施している企業数	R2	— 件	増加	毎年3名以上を雇用している中小企業500社に実施するアンケート調査結果
ワーク・ライフ・バランスの普及・啓発	新	長時間労働の削減に取り組む事業者の割合	H30	56.3 %	65.0 %	毎年3名以上を雇用している中小企業500社に実施するアンケート調査結果
勤労者の福利厚生者の充実		中小企業退職金共済加入者数	H30	3,759 人	4,200 人	中小企業退職金共済から報告
人材確保に対する支援		人材確保充足数	H30	1,601 件	1,650 件	ハローワークで出している市内企業の求人に対し、求職者をマッチングした件数

項 目	新規	数値目標、KPI	基準 年度	基準値	目標値 (令和6年度)	目標値の確認方法
基本目標3 市の魅力を内外に発信し、新しい人の流れづくり	数値目標	純移動数(転入者数－転出者数) ※直近の5年間の累計	H30	△164 人	0 人 (均衡)	富山県人口移動調査による
	新	射水市観光ホームページ閲覧数	H30	332,298 件	600,000 件	観光協会が運営しているホームページの閲覧数(累計)
移住交流の推進	新	移住施策を活用して市外から移住した人数	H30	88 人	100 人	移住施策を活用して市外から移住した延べ人数
住宅支援	新	指定宅地における住宅建築率	H30	41.9 %	50.0 %	指定宅地における住宅建築率
住宅相談・住まい情報の提供		住宅相談窓口年間相談数	H30	36 件	45 件	射水市住宅関連情報提供事業の一環として設置している住宅相談所での相談件数
空き家の有効活用		空き家の有効活用支援延べ件数(サテライトオフィス、シェアオフィスを含む。)(累計)	H30	1 件	3 件	各種助成制度を活用し、空き家の有効利用を図ったものの延べ件数
	新	空き家情報バンクへの登録件数	H30	36 件	40 件	空き家情報バンクへの登録件数
観光資源の有効活用		ロケ地(川の駅)来訪者数	H30	45,835 人/年	50,000 人/年	川の駅新湊の入込数
		海王丸パーク周辺入込数	H30	1,767,400 人/年	1,850,000 人/年	海王丸パークときつときと市場の入込数の合計
関係人口の創出	新	継続的に射水市にふるさと納税をした人数	H30	295 人/年	320 人/年	3年以上継続して射水市にふるさと納税をした人数
	新R2	市LINE公式アカウント友だち数	R2	— 人	25,000 人	市LINE公式アカウントの友だち数
スポーツによる交流人口の拡大	新	フットボールセンターの年間利用者数	H30	— 人/年	60,000 人/年	R3年度に建設予定のフットボールセンターの年間利用者数
コミュニティバス、デマンドタクシー運行の利便性向上		コミュニティバス等乗車人数	H30	418,572 人/年	450,000 人/年	コミュニティバスとデマンドタクシーの乗車人数
2次交通の充実		万葉線乗車人数	H30	1,192,041 人/年	1,200,000 人/年	万葉線の乗車人数
	新	小杉駅、越中大門駅の乗車人数	H30	1,557,708 人/年	1,642,500 人/年	あいの風とやま鉄道が発表する1日あたりの乗車人数×365日
高等教育機関、企業等と連携した学生の地元就職支援		市内企業に就職したい学生の割合	H30	50.7 %	70.0 %	市内企業訪問バスツアー参加者に対するアンケート調査結果
		学生訪問支援事業の参加学生の満足度	H30	97.2 %	98.5 %	市内企業訪問バスツアー参加者に対するアンケート調査結果
学生の地域活動への参画	新R5	まちづくりに参画した学生・生徒の数	R4	437 人	503 人	「射水市学生のまちづくり推進会議」の学生委員数、「いみず学生アイデアコンテスト一次審査」への応募学生数、「高等学校との連携事業」に参加した生徒の数の計(年間)
新たな学びの場の創出に対する支援	新R5	新たな学びの場の創出に対する支援数	R4	— か所	2 か所	新たな学びの場の創出に対し支援した数

項 目	新規	数値目標、KPI	基準 年度	基準値	目標値 (令和6年度)	目標値の確認方法
基本目標4 安心して暮らせる時代に合ったまちづくり	新	地域の支え合い体制の推進地域数	H30	15 地域	27 地域	地域支え合いネットワーク事業を実施している地域数
	数値目標	まちづくり講座参加者のうち、まちづくりに積極的に参加したいと答えた人の割合	H30	45.5 %	50.0 %	まちづくり講座(まちづら、まちづくりセミナー等)への参加者に対するアンケート
医療体制の充実と質の高い医療の提供		総合患者満足度数	H30	4.13 点	4.15 点	入院患者を対象に行っている満足度調査の結果
地域の防災体制の整備、安全・安心な暮らしの実現		防災士取得者人数	H30	109 人	162 人	防災士取得者数
		消防団員数	H30	707 人	757 人	消防団員数
低炭素・循環・自然共生による価値の創出	新	一人/日当たりのごみの排出量	H27	1,117 g	1,005 g	国報告値 ※9月議会で報告する場合、前々年度の実績値となる(各年度の国確定値の報告が翌年度の1月ごろになるため)
	新	リサイクル率	R2	20.9 %	22.1 %	
地域づくりの担い手育成、情報通信技術の活用による利便性の向上		まちづくり講座受講者数	H30	22 人	200 人	まちづくり講座(まちづら、まちづくりセミナー等)への参加者数
全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の展開	新	事業運営を担う中核的法人数	H30	— 法人	2 法人	老若男女が活躍できる「ごちゃまぜ」のまちづくりに主体的に取り組む法人数
高齢者が健康で生きがいを持ち活躍できるまちづくりの推進		元気な高齢者の割合	H30	82.0 %	78.0 %	65歳以上人口のうち、要支援・要介護認定を受けていない者の割合
女性活躍の推進	新 R3	セミナー受講者の満足度	R3	— %	80.0 %	セミナー受講者に対するアンケート結果
	新 R3	女性キャリアアップ応援補助金年間利用件数	R3	— 件	20 件	補助金申請件数
多様性を認め合う共生社会の実現	新	多文化こどもサポートセンターの参加数	H30	176 人	200 人	多文化こどもサポートセンターの年間参加数
人口減少を踏まえたストックマネジメントの強化		見直しする公共施設の延べ件数	H30	32 件	42 件	廃止した累計の施設数
情報通信技術の活用による利便性の向上及び行政の効率化		ICカードの多目的利用延べ業務数	H30	4 業務	10 業務	マイナンバーカードを利用できる業務の数
	新	IoT活用延べ業務数	H30	— 業務	15 業務	IoTを活用する市の事業の数
	新	RPA活用延べ業務数	H30	— 業務	20 業務	RPAを活用する市の事業の数
	新 R2	テレワーク活用延べ件数	R1	— 件	360 件	市職員でテレワークを実施した件数(目標:テレワーク端末30台×12か月)
とやま呉西圏域連携中核都市圏の取組強化、官民連携事業の推進		呉西圏域で連携して取り組む事業数	H30	32 件	33 件	とやま呉西圏域都市圏ビジョンに基づき実施された事業のうち、本市が参加する事業数

第 5 次射水市行財政改革集中改革プラン 令和 6 年度改訂版（案）

令和 6 年 9 月
射 水 市

目次

1	第5次集中改革プランの見直しについて	1
(1)	令和6年度改訂版について	1
2	取組内容（一覧）	2
3	取組内容（個表）	7
(1)	多様な主体との連携による良質な行政サービスの提供	8
①	市民との情報共有と協働・共創によるまちづくりの充実	8
②	公民連携によるサービスの維持・向上	14
③	D Xの推進による市民生活満足度の向上	24
(2)	効率的で効果的な行財政運営	29
①	市役所D Xを含む事務事業の効率化・適正化	29
②	職員の能力向上と意識改革	37
③	適正な職員定数と様々な課題に柔軟に対応できる組織運営	39
(3)	健全な財政基盤の堅持	41
①	自主財源の確保及び創出	41
②	公営企業の経営健全化	44

1 第5次集中改革プランの見直しについて

第5次集中改革プランは、本市の行財政改革の基本方針等を示す「第5次射水市行財政改革大綱（推進期間：令和5年度～令和9年度）」の実施計画であり、市を取り巻く状況の変化などに的確に対応するため、毎年度内容を見直すこととしています。

(1) 令和6年度改訂版について

「社会変化に柔軟に対応する行財政運営」を基本理念とした第5次射水市行財政改革大綱は、「多様な主体との連携による良質な行政サービスの提供」、「効率的で効果的な行財政運営」、「健全な財政基盤の堅持」の3つの基本方針を設定し、今後、想定される社会変化に柔軟に対応しつつ、健全な財政基盤を堅持するため、行財政改革の具体的な取組を推進することとしています。

令和6年能登半島地震を経験したことも踏まえ、緊急的な事態に対応すべき課題も含め、本改訂版では、2つの新規取組を追加し、12の取組において数値目標や取組スケジュール等の時点修正を行いました。

引き続き、本プランに掲げた取組を着実に進めてまいります。

2 取組内容（一覧）

基本方針 1 多様な主体との連携による良質な行政サービスの提供

多様化・高度化する市民ニーズ、地域課題と向き合い、これまでの地域振興会との協働はもとより、本市に活動拠点を有するNPO法人、ボランティア団体等の市民活動団体や企業と協力し、市役所にはないノウハウやアイデアを取り入れながら、本市のまちの魅力向上につなげます。

また、デジタル技術を活用しながら時代の変化に対応した行政サービスを展開し、市民の利便性、生活満足度の向上に努め、幅広く未来世代から選ばれる射水市を目指します。

取組項目 ① 市民との情報共有と協働・共創によるまちづくりの充実

市民と行政が様々な課題を共に考え行動する環境づくりのため、市民が求める情報や市の取組について積極的に情報発信・共有するとともに、地域振興会への支援や市政への幅広い市民参加を促進し、多様な主体と連携しながら地域の課題解決に取り組むことができる、協働・共創のまちづくりを推進します。

番号	取組名	担当課	頁
1	市政出前講座の充実【一部変更】(※)	未来創造課	8
2	地域防災力の向上【一部変更】(※)	防災・資産管理課	9
3	まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成	市民活躍・文化課	9
4	NPOとの協働によるまちづくりの推進	市民活躍・文化課	10
5	地域型市民協働事業の推進	市民活躍・文化課	10
6	市民主体の芸術文化活動の推進	市民活躍・文化課	11
7	多文化共生の推進【一部変更】	市民活躍・文化課	11
8	創業支援の推進	商工企業立地課	12
9	中学校の休日部活動の地域移行の推進	学校教育課、生涯学習・スポーツ課	12
10	コミュニティ・スクールの推進【一部変更】	学校教育課、生涯学習・スポーツ課	13
11	消防団組織の充実強化【一部変更】(※)	消防本部総務課	13

取組項目 ② 公民連携によるサービスの維持・向上

複雑化・多様化する市民ニーズに的確に対応するため、民間のアイデアやノウハウを有効活用しながら、市民サービスを維持・向上させるとともに、新しい価値を創造し、地域活性化につながる公民連携を推進します。

番号	取組名	担当課	頁
12	民間提案事業の拡充	未来創造課、公共施設マネジメント推進課	14
13	公共施設マネジメントの推進	公共施設マネジメント推進課	14
14	文化施設の再編整備の検討	市民活躍・文化課	15
15	公共交通におけるMaaSの推進	生活安全課	16
16	PFSを活用した特定健診受診勧奨モデル事業の実施	保険年金課	16
17	市立保育園の在り方の検討	子育て支援課	17
18	市立幼稚園の在り方の検討	子育て支援課	18
19	観光消費額の増加	観光まちづくり課	19
20	道の駅周辺エリアの魅力向上	観光まちづくり課	20
21	移住トータルサポート窓口の設置	観光まちづくり課	20
22	除雪業務の効率化の推進	道路課	21
23	主要体育館の在り方の検討	生涯学習・スポーツ課	22
24	図書館の在り方の検討	生涯学習・スポーツ課	23

取組項目 ③ DXの推進による市民生活満足度の向上

新しいデジタル技術を効果的に活用しながら、時代の変化に対応した行政サービスを展開し、市民の利便性や生活満足度の向上に取り組みます。

番号	取組名	担当課	頁
25	スマート窓口の導入（行政手続のデジタル化）	未来創造課、市民課	24
26	DXの推進による効率的な防災体制の強化	防災・資産管理課	24
27	指定避難所への地震解錠キーボックス等の導入【新規】(※)	防災・資産管理課	25
28	自治会・町内会活動における電子自治会アプリの活用促進【一部変更】(※)	市民活躍・文化課	25
29	持続可能な公共交通の実現【一部変更】	生活安全課	26
30	生産性の向上を図る中小企業のデジタル化推進	商工企業立地課	27
31	デジタル技術の活用による空き家等の利活用促進	観光まちづくり課	27
32	ICT教育の一層の推進	学校教育課	28

基本方針 2 効率的で効果的な行財政運営

デジタル技術を活用した行政サービスが求められる中、新しい仕事のあり方について、市役所内の業務改善・業務改革に果敢にチャレンジしていきます。また、働き方改革を進めながら、未来を見据えた変化に対応できる人づくり、組織づくりを推進します。

取組項目 ① 市役所DXを含む事務事業の効率化・適正化

常に費用対効果や成果を意識し、徹底した事務事業の経費の節減及び合理化に取り組むとともに、新しいデジタル技術を活用しながら、業務効率化・適正化を推進します。

番号	取組名	担当課	頁
33	多様な働き方を実現するテレワーク制度の見直し【一部変更】	人事課	29
34	市役所DXの推進に伴う業務改革（BPR）の実施	未来創造課	30
35	RPA利活用の推進	未来創造課	30
36	IOT利活用の推進	未来創造課	31
37	オープンデータの拡充	未来創造課	31
38	自治体情報システムの標準化・共通化	未来創造課	32
39	補助金の適正な運用	未来創造課	32
40	使用料・手数料の適正化に関する計画的な見直し	未来創造課、公共施設マネジメント推進課	33
41	ペーパーレスの推進	総務課	33
42	電子契約の導入	総務課	34
43	事務事業における温室効果ガス排出量の削減	環境課	35
44	介護認定審査会資料のペーパーレス化	介護保険課	36
45	教員の教育環境充実のための環境整備	学校教育課	36

取組項目 ② 職員の能力向上と意識改革

様々な市民ニーズに的確に対応できる先見性や幅広い視野を持った職員の育成を進めるとともに、職員の意識改革や組織マネジメントの向上を図ります。また、職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを推進し、効率的に業務を遂行できる働きやすい職場環境整備に努めます。

番号	取組名	担当課	頁
46	職員の能力・意欲の向上	人事課	37
47	人事評価制度の見直し【一部変更】	人事課	38
48	時間外勤務時間の縮減【一部変更】(※)	人事課	38

取組項目 ③ 適正な職員定数と様々な課題に柔軟に対応できる組織運営

時代の変化や多様化する行政課題に迅速に対応し、効率的・効果的に施策を展開するため、組織体制の充実・強化に取り組むとともに、定員適正化計画に基づき、人員配置の最適化を図ります。

番号	取組名	担当課	頁
49	組織体制の充実・強化	人事課	39
50	適正な職員数の管理	人事課	39
51	職員給与の適正管理	人事課	40

基本方針 3 健全な財政基盤の堅持

社会経済情勢や市民ニーズの変化に合わせ、限られた経営資源を効率的に活用します。また、本市の発展に寄与する施策を戦略的に展開できるよう、持続可能な財政運営を推進します。

取組項目 ① 自主財源の確保及び創出

中長期的な視点を持って安定した財政基盤を確立するための企業誘致等に積極的に取り組むほか、広告料・命名権などの取組を継続・拡充し、新たな財源を創出します。

番号	取組名	担当課	頁
52	企業版ふるさと納税制度の活用	政策推進課	41
53	有料広告収入等の独自財源の確保	財政課	42
54	円滑な財政運営に向けた基金の積立及び市債の繰上償還	財政課	42
55	未利用市有地の有効活用【一部変更】	防災・資産管理課	43
56	企業立地の促進	商工企業立地課	43

取組項目 ② 公営企業の経営健全化

上下水道事業及び病院事業が、将来にわたって継続的かつ安定的にサービス提供できるよう経営基盤の強化につながる取組を戦略的に展開するなど、一層の経営の健全化を推進します。

番号	取組名	担当課	頁
57	水道事業ビジョンの見直しによる健全な事業運営	上下水道業務課	44
58	下水道事業ビジョンの見直しによる健全な事業運営	上下水道業務課	44
59	電子式水道メーターのスマート化【新規】	上下水道業務課	45
60	水道事業における配水管渠の耐震化率の向上	上水道工務課	45
61	汚水処理事業の広域化(処理場の統廃合)【一部変更】(※)	下水道工務課	46
62	病院事業における総合的な経営改善策の推進	市民病院経営管理課	47

(※) 能登半島地震の影響を踏まえ、新規追加や変更等があった取組

3 取組内容（個表）

【個表の見方】

番号	1	取組名	所属名	未来創造課	① 区分	一部変更
		市政出前講座の充実				
		あるべき姿 (目指す姿)	市民が求める情報や市の取組について積極的に提供・共有し、理解されている。			
		現状と課題	現在、市政情報の提供の場の一つとして「市政出前講座」（令和5年度：109講座）を実施しているが、市民が求める内容となっているか明確に把握できていない。協働・共創のまちづくりへの契機を深める効果的な講座としていく必要がある。また、能登半島地震の影響により防災関連の講座に関心が高まっており、全体的に講座申込みが増加傾向にある。			
		課題解決に向けた取組	講座終了後に市民の満足度や要望を聞きとるアンケートを実施し、必要に応じてメニューや運用の見直しを検討していく。			
②	数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)
		市政出前講座実施数（年間）	回	158	③ 168	④ 200
		取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
⑤		アンケートの実施	実施			
		市政出前講座の見直し	実施			
		⑥ 備考	⑦ 狙う効果			
		「現状と課題」に能登半島地震に関する記載を追加			☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上	

- ① 区分 … 本集中改革プラン改訂版において、新規に追加した取組は、「新規 令和6年度」、変更があった取組は、「一部変更」と記載しています。
 なお、記載がない場合は、前年度からの継続の取組です。
- ② 数値目標 … あるべき姿や課題解決につなげるための活動指標又は成果指標を設定しています。
- ③ 実績(R5) … 本集中改革プラン令和5年度進捗状況報告書での数値目標の実績を記載しています。
- ④ 目標値(R9) … 本集中改革プラン推進期間中の数値目標の目標値を設定しています。
- ⑤ 取組スケジュール … 本集中改革プラン推進期間中のスケジュールを記載しています。
- ⑥ 備考 … 一部変更の取組についての説明を記載しています。
- ⑦ 狙う効果 … 取組によって狙う効果を記載しています。

※その他の箇所については、特に記載がない限りプラン策定時の内容です。

基本方針 1 多様な主体との連携による良質な行政サービスの提供

取組項目 ① 市民との情報共有と協働・共創によるまちづくりの充実

番号	1	取組名	市政出前講座の充実		所属名	未来創造課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		市民が求める情報や市の取組について積極的に提供・共有し、理解されている。						
現状と課題		現在、市政情報の提供の場の一つとして「市政出前講座」（令和5年度：109講座）を実施しているが、市民が求める内容となっているか明確に把握できていない。協働・共創のまちづくりへの契機を深める効果的な講座としていく必要がある。また、能登半島地震の影響により防災関連の講座に関心が高まっており、全体的に講座申込みが増加傾向にある。						
課題解決に向けた取組		講座終了後に市民の満足度や要望を聞きとるアンケートを実施し、必要に応じてメニューや運用の見直しを検討していく。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	市政出前講座実施数（年間）		回	158	168	200		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
アンケートの実施			実施					
市政出前講座の見直し			実施					
備考				狙う効果				
「現状と課題」に能登半島地震に関する記載を追加				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	2	取組名	地域防災力の向上		所属名	防災・資産管理課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)			地域とともに防災活動に取り組む防災士が増え、複数の地域振興会で地区防災計画が策定されるなど、地域防災力の向上が一層図られている。					
現状と課題			地域振興会の推薦により資格を取得した防災士は86名（うち女性16名）、地区防災計画を策定している地域振興会は1地域振興会である。 能登半島地震を経験し、自助や共助による災害対応強化の重要性も高まっていることから、 地域防災力の向上に向け、一層、防災士の養成と地区防災計画の策定を促進する必要がある。					
課題解決に向けた取組			引き続き、地域振興会から推薦された者の防災士の資格取得を支援し、地域と密接に関わる防災士の養成に取り組むとともに、女性防災士の養成に努める。また、地区防災計画の策定促進に向け、地域振興会に対し作成方法の助言や地元防災士との連携について支援を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	地域振興会から推薦され資格取得をした防災士の数		人	86	92	172		
	地区防災計画を策定した地域振興会の数		地域振興会	1	1	27		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
防災士の資格取得支援			働きかけ実施					
地区防災計画策定支援			働きかけ実施					
備考					狙う効果			
「現状と課題」に能登半島地震に関する記載を追加し、「数値目標」を再設定					☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☐ サービスの向上			

番号	3	取組名	まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成		所属名	市民活躍・文化課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			人と人とのつながりや交流が、まちに活力を生み出している。					
現状と課題			市民協働に携わる市民の固定化、高齢化、後継者不足により、まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成が急務である。協働の理念を広く周知することで、担い手の発掘・育成に努め、既にまちづくりに取り組んでいる市民同士のネットワークの構築を進める必要がある。					
課題解決に向けた取組			まちづくりに参画する市民の裾野を広げるため、協働のまちづくりの理解を深める「射水まちづくりプラットフォーム」、まちづくりに携わる市民のスキルアップを図る「射水まちづくりセミナー」及び女性の地域活動参加を後押しする「女性活躍推進セミナー」を実施していく。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	まちづくり講座の年間受講者数（年間）		人	112	138	200		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
まちづくり人材育成事業の実施			実施					
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	4	取組名	NPOとの協働によるまちづくりの推進	所属名	市民活躍・文化課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	人と人とのつながりや交流が、まちに活力を生み出している。						
現状と課題	本市においては、多様なNPOがそれぞれの特色を生かした活動を実施しているが、NPO同士やまちづくり団体と連携しながら地域課題に取り組むことも期待されている。 市民協働のまちづくりを推進するためには、こうしたNPO活動の活性化、NPO同士やNPOとまちづくりに関わる団体との連携、協働を促進していくことが重要である。						
課題解決に向けた取組	市内NPOの活動促進連携事業として、NPO活動展の開催を継続して実施するほか、NPOポータルサイトの活用促進に取り組む。また、令和6年度から設置した「まちづくり談話室」をはじめ、NPO同士の連携や、NPOと地域振興会等との連携を推進していく。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	NPO同士やNPOとまちづくり関係団体との連携事業総数	件	2	2	7		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
NPOの連携推進		実施					
NPOポータルサイトの活用		実施					
備考			狙う効果				
			☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	5	取組名	地域型市民協働事業の推進	所属名	市民活躍・文化課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	人と人とのつながりや交流が、まちに活力を生み出している。						
現状と課題	「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を持ち、地域に合ったまちづくりを実現するため、地域と行政が協働を進めている。このような協働のまちづくりを推進していくためには、協働のパートナーとの信頼関係が欠かせないことから、市民及び市職員（行政）は、協働の意識を高め、連携していく体制づくりが必要である。						
課題解決に向けた取組	行政が実施していた事業のうち、協働の視点を踏まえて協働にふさわしい事業を地域へ移行するとともに、引き続き、地域振興会からの提案事業の公募を進めていく。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	地域型市民協働事業への移行事業総数	件	36	36	40		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
地域型市民協働事業への移行		順次移行					
備考			狙う効果				
			☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	6	取組名	市民主体の芸術文化活動の推進		所属名	市民活躍・文化課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			市民主体の芸術文化活動が、市民自らに心の豊かさと潤いのある生活をもたらしている。					
現状と課題			新型コロナウイルス感染症に伴う活動の停滞や参加機会の減少のほか、芸術文化活動の担い手の高齢化が進んでいる。そのため、新たな担い手の育成や活動の活性化を図る必要がある。					
課題解決に向けた取組			芸術文化にかかる市民の発表活動を支援するとともに、市民団体と連携して市民が文化に親しむ機会を提供し、更なる活動への参加促進を図る。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	市の支援や市との連携により行われた市民団体の活動数（年間）		回	31	33	35		
	取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
	市民主体の芸術文化活動の推進		実施					
	備考		狙う効果					
			☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上					

番号	7	取組名	多文化共生の推進		所属名	市民活躍・文化課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)			人と人とのつながりや交流が、まちに活力を生み出している。					
現状と課題			本市は県内自治体の中で、人口に占める外国人の割合が最も高く、今後も増加することが見込まれる。そのため、互いの生活習慣や文化を理解し尊重し合いながら、共に暮らしやすい地域づくりを進める必要がある。					
課題解決に向けた取組			市内在住の外国人に対して、生活・就労情報の提供や日本語学習の支援を行うとともに、多文化共生意識の醸成、多文化共生推進プランの策定に取り組む。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	多文化共生キーパーソン登録者数		人	20	23	50		
	多文化共生に関する講座等への参加者数(年間)		人	142	195	250		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
多文化共生意識を醸成する事業の実施			実施					
多文化共生推進プランの策定			検討策定実施					
備考					狙う効果			
数値目標の「外国人相談窓口利用件数」を「多文化共生に関する講座等への参加者数」に変更。多文化共生意識の醸成を図る活動指標として、国際理解講座等、多文化共生に関する講座への参加者数を設定する。					☐経費の節減 ☐費用対効果の向上 ☐事務効率の向上 ☐業務量の低減 ☐公平性・公正性の確保 ☒地域の活性化・魅力向上 ☐財政・経営の健全化 ☐透明性の確保・市民への説明責任 ☐市民協働の推進 ☐職員の能力・組織力の向上 ☐サービスの向上			

番号	8	取組名	創業支援の推進	所属名	商工企業立地課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	商工団体等との連携を更に深め、創業支援事業の強固な推進体制が確保されている。						
現状と課題	人口減少や少子高齢化、事業承継における後継者不足等により、市内事業者の廃業が増加傾向にあり、市内経済の縮小が懸念される。そのため、創業を促進し経済循環の活性化を図るとともに、多様な働き方の面からも一つの選択肢として創業を支援し、市民の誰もがいきいきと働くことができる社会を実現していく必要がある。						
課題解決に向けた取組	商工会議所、商工会の認定創業支援機関及び市内金融機関、日本政策金融公庫等の創業支援関係機関と連携し、創業希望者への情報提供、専門家派遣、創業塾（創業セミナー）、窓口相談等の充実を図り、継続的な支援に取り組む。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	創業支援事業補助金利用件数（年間）	件	19	24	19		
	取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
特定創業支援事業の実施(創業塾等の開催)		実施 					
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	9	取組名	中学校の休日部活動の地域移行の推進	所属名	学校教育課、生涯学習・スポーツ課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	中学校の休日部活動については、地域の運営団体・実施主体による地域部活動へ移行し、生徒の活動機会の確保と教職員の負担軽減が図られている。						
現状と課題	中学校の部活動は、生徒の減少により大会参加や活動機会が少なくなる傾向にある。また、教職員の部活動指導が、指導経験のない教職員の負担増や長時間労働の要因となっている。そのため、生徒の活動機会を確保するとともに、教職員の負担減を図る必要がある。						
課題解決に向けた取組	中学校の休日部活動を地域の運営団体・実施主体の団体へ移行する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	地域移行を実施する中学校部活動の部活動数	部活動数	3	6	25		
	取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
休日部活動の地域移行		段階的な地域移行 					
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	10	取組名	コミュニティ・スクールの推進	所属名	学校教育課、生涯学習・スポーツ課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		学校と地域が目標を共有し、相互に連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えていく。					
現状と課題		学校は多様な児童生徒及び保護者等への対応が必要な状況である。また、そのような学校の役割の拡大により、教員の業務量が増加している。一方、地域においても、支え合いやつながりが希薄化することによって、地域社会における教育力の低下が指摘されている。そのため、学校と地域が相互に連携した学校づくりや地域づくりを進める必要がある。					
課題解決に向けた取組		全小・中学校にコミュニティ・スクールを導入する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率
	学校運営協議会設置校数		校	0	0	21	
	地域学校協働活動推進員		人	3	3	24	
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
学校運営協議会の設置			準備(済)	導入・運用			
地域学校協働本部の活動内容の充実			検討	実施			
備考				狙う効果			
中学校区に1名ずつ配置を想定していた学校支援コーディネーター(地域学校協議会活動推進員)を、各小中学校に1名ずつ配置することとしたため、数値目標を変更				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	11	取組名	消防団組織の充実強化		所属名	消防本部総務課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)			消防団活動に地域住民が参画し、地域防災力が保たれている。					
現状と課題			新規加入者が減少しており、消防団員の確保が難しい現状にある。また、消防団活動に必要な知識の伝承が滞っている。 <u>能登半島地震の経験も踏まえ</u> 、地域防災力を維持するため、消防団員を増やし、知識と技術を維持する必要がある。					
課題解決に向けた取組			地域防災力の強化を図るため、地域や事業所、大学等と連携し消防団員確保に努めるとともに、 <u>新たな取組も進めていく。また、</u> 社会情勢に即応できる高度な専門知識と技術の修得のため、多数の消防団員に研修等に参加してもらい、組織の強化に努める。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	研修受講人数（5年間の累計） ※令和4年度実績168人		人	—	149	750		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
消防団員の加入促進			継続して実施					
消防団員研修の実施			継続して実施					
備考					狙う効果			
「現状と課題」に能登半島地震に関する記載を追加し、 「課題解決に向けた取組」に、消防団員確保につながる取組を進めていく記載を追加					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☒ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

取組項目 ② 公民連携によるサービスの維持・向上

番号	12	取組名	民間提案事業の拡充		所属名	未来創造課、公共施設マネジメント推進課	区分	
あるべき姿（目指す姿）			民間のノウハウやアイデアを効果的に事業に活かし、市民サービスの向上と財政負担の軽減につながっている。					
現状と課題			今後10年以内に公共施設等の約4割が築40年を経過するなど老朽化が進む中、これからの公共施設の在り方を見直し、行政が担うべきサービスを見極め、必要なサービスを維持できるよう機能集約を図りながら、本市の規模に見合った総量に縮小していく必要がある。					
課題解決に向けた取組			公共施設及び未利用市有地に関する提案に加え、事務改善等のソフト事業も対象とし、更なる公民連携を推進する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	民間提案制度による事業採択件数		件数	12	19	26		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
民間提案制度（公共施設等）			運用・実施					
民間提案制度（ソフト事業）			検討		運用・実施			
備考					狙う効果			
					☒ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☒ サービスの向上			

番号	13	取組名	公共施設マネジメントの推進		所属名	公共施設マネジメント推進課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			公共施設マネジメントにより、本市の規模に見合った適正な施設が保全され、かつ施設維持管理コストが平準化されている。					
現状と課題			令和4年度に公共施設の包括管理業務委託を導入した。今後は施設維持管理コストの平準化や縮減を図るため、個別施設計画等の各種計画と連動しながら予防保全を含めた公共施設マネジメントを推進する必要がある。					
課題解決に向けた取組			施設データを一元管理しながら、個別施設計画と連動する施設保全計画を策定する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
公共施設包括管理業務			運用（1期目）				2期目	
個別施設計画の進捗管理			進捗管理					
データ一元化による施設カルテの作成			検討（済）	作成				
施設保全計画の策定			検討	策定				
備考				狙う効果				
				☒ 経費の節減 ☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 事務効率の向上 ☒ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	14	取組名	文化施設の再編整備の検討	所属名	市民活躍・文化課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		文化施設が市民主体の芸術文化活動の拠点や芸術文化に親しむ賑わいの場として、多くの市民に利用されている。					
現状と課題		新湊中央文化会館・小杉文化ホール・大門総合会館は、それぞれ老朽化が進行しており、コロナ禍の影響もあって利用者数や稼働率が低下傾向にある。時代とともに変化するニーズや社会情勢への対応も含め、効果的かつ効率的に文化振興を展開できる拠点施設の検討が必要である。					
課題解決に向けた取組		これまで外部有識者で構成する「射水市文化振興・文化施設在り方検討会」、職員で構成する「文化施設等再編検討委員会」により、各施設の方向性を検討してきた。引き続き「射水市文化施設等再編基本構想」の策定に取り組み、その後は再編施設の整備計画の検討を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率
	－		－	－	－	－	
施設状況	施設名		建設年度	利用人数(R1)	利用人数(R5)	対R1比	管理形態
	新湊中央文化会館		昭和56年	120,636人	73,246人	▲ 39.3%	指定管理
	小杉文化ホール		平成5年	61,462人	54,632人	▲ 11.1%	指定管理
	大門総合会館		昭和62年	54,934人	40,402人	▲ 26.5%	指定管理
※施設状況の利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度と比較しています。							
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
「射水市文化施設等再編基本構想」の策定			策定				
文化施設の再編整備の検討					検討		
備考				狙う効果			
				☒経費の節減 ☒地域の活性化・魅力向上 ☒費用対効果の向上 ☐財政・経営の健全化 ☐事務効率の向上 ☐透明性の確保・市民への説明責任 ☐業務量の低減 ☐市民協働の推進 ☒サービスの向上 ☐公平性・公正性の確保 ☐職員の能力・組織力の向上			

番号	15	取組名	公共交通におけるM a a sの推進		所属名	生活安全課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			キャッシュレス決済の導入等M a a sを推進し、利用者の利便性が向上している。					
現状と課題			万葉線では、決済方法が現金や紙の回数券のみで、キャッシュレス決済ができない。 また、現在複数の公共交通がある中、利用者一人一人の移動ニーズに合わせた最適なサービス選択(検索・予約・決済)が難しい。市民等がより利用しやすい環境を整備していく必要がある。					
課題解決に向けた取組			万葉線のキャッシュレス決済として、交通系 I Cカードを導入する。 また、各種公共交通の検索・予約・決済を連携し 1つのサービスとして提供することで、公共交通サービスを利用し易くする。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
万葉線交通系 I Cカード導入			機器製造・車両改良(済)	システム開発	運用開始			
M a a s (検索・予約・決済連携) サービスの提供				検討	導入	運用		
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	16	取組名	P F Sを活用した特定健診受診勧奨モデル事業の実施	所属名	保険年金課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	特定健診受診率が向上し、将来的な健康寿命の延伸や医療費適正化につながっている。						
現状と課題	国民健康保険被保険者の特定健診未受診者に対する受診勧奨について、これまで市単独で取り組んできた。民間事業者のノウハウを活用し、広域的かつ効果的な受診勧奨を実施して受診率向上につなげる必要がある。						
課題解決に向けた取組	県及び県内他自治体と合同で成果連動型委託契約(P F S(※))を活用した受診勧奨モデル事業を実施し、受診率の向上による国民健康保険被保険者の健康寿命の延伸、医療費の適正化につなげる。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	特定健診受診率	%	49.2%	—	57.0%		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
P F Sを活用した特定健診受診勧奨モデル事業の実施		実施					
				検証			
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

(※)Pay For Successの略称。地方公共団体等が民間事業者に委託する事業のうち、その事業により解決すべき行政課題に対応した成果指標を設定し、支払額が当該成果指標値の改善状況に連動するもの。

番号	17	取組名	市立保育園の在り方の検討		所属名	子育て支援課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	保育園の適正配置により効率的な運営が図られ保育環境の充実につながっている。							
現状と課題	市立保育園については、令和4年度末時点で11施設ある。園舎の老朽化や園児数の減少等により、集団保育の効果を低下させることなく、適正に施設運営を維持していく必要がある。							
課題解決に向けた取組	市立保育園・幼稚園の民営化方針に基づき、民営化を検討する要件に該当した場合、施設存続等の今後の在り方について協議を進め、協議が整えば、施設の統廃合を実行する。							
数値 目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	市立保育園数	園	11	10	10			
施設 状況	施設名	建設年度	園児数(R4)	園児数(R5)	対前年比	管理形態		
	放生津保育園	昭和57年	55人	47人	▲ 14.5%	市直営		
	片口保育園	昭和51年	122人	125人	2.5%	市直営		
	塚原保育園	昭和51年	107人	105人	▲ 1.9%	市直営		
	金山保育園	昭和59年	44人	39人	▲ 11.4%	市直営		
	大江保育園	昭和60年	99人	99人	0.0%	市直営		
	千成保育園	昭和48年	105人	110人	4.8%	市直営		
	池多保育園	昭和52年	58人	54人	▲ 6.9%	市直営		
	大門きらら保育園	平成11年	275人	274人	▲ 0.4%	市直営		
	大島南部保育園	平成8年	87人	87人	0.0%	市直営		
	下村保育園	平成6年	76人	70人	▲ 7.9%	市直営		
※八幡保育園は令和5年度末で閉園しました。								
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
在り方の検討、決定した方向性の実施		協議が整ったら、決定した方向性を実施						
備考				狙う効果				
				☒ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	18	取組名	市立幼稚園の在り方の検討			所属名	子育て支援課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			幼稚園の適正配置により効率的な運営が図られ幼児教育環境の充実につながっている。						
現状と課題			市立幼稚園については、令和4年度末時点で2施設ある。園舎の老朽化や園児数の減少等により、集団教育の効果を低下させることなく、適正に施設運営を維持していく必要がある。						
課題解決に向けた取組			市立保育園・幼稚園の民営化方針に基づき、民営化を検討する要件に該当した場合、施設存続等の今後の在り方について協議を進め、協議が整えば、施設の統廃合を実行する。						
数値 目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	市立幼稚園数		園	2	2	1			
施設 状況	施設名		建設年度	園児数(R4)	園児数(R5)	対前年比	管理形態		
	七美幼稚園		昭和54年	12人	11人	▲ 8.3%	市直営		
	大門わかば幼稚園		平成17年	69人	63人	▲ 8.7%	市直営		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
在り方の検討、決定した方向性の実施			協議が整ったら、決定した方向性を実施						
備考					狙う効果				
					☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☒ サービスの向上				

番号	19	取組名	観光消費額の増加			所属名	観光まちづくり課	区分	
		あるべき姿 (目指す姿)	観光関連事業者など関係団体と連携し、本市の地域資源を活かした稼げる観光の基盤を作り、観光消費額の増加につながっている。						
		現状と課題	観光消費額の増加に向け、観光地としての魅力向上に加え、宿泊施設の充実や観光関連事業者の育成・支援に取り組む必要がある。						
		課題解決に向けた取組	観光地としての魅力向上の中心的な役割を担う射水市観光協会との協力体制を強化する。また、宿泊施設の充実に加え、魅力ある観光コンテンツづくりや観光イベントのブラッシュアップに取り組む。						
数値目標	項目名		単位	参考(R1)	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	観光消費額（年間） ※特産物販売施設の売上総額		千円	1,054,000	777,377	947,590	1,135,000		
	市内宿泊者数（年間）		人	32,618	68,568	—	155,000		
※新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度を参考数値として表記しています。									
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
射水市観光協会との連携強化			継続して実施						
魅力ある観光コンテンツづくりへの支援			継続して実施						
観光イベントのブラッシュアップ			継続して実施						
備考					狙う効果				
					☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	20	取組名	道の駅周辺エリアの魅力向上			所属名	観光まちづくり課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		民間事業者のアイデアやノウハウを活用し、道の駅周辺エリアの魅力向上や観光消費額の増加につながっている。							
現状と課題		道の駅新湊の施設・設備の劣化が進んでおり、早急に施設の改修等に取り組む必要がある。また、隣接する新湊農村環境改善センターについても、施設の劣化や利用者の減少といった課題を抱えている。							
課題解決に向けた取組		民間活力を導入し、道の駅新湊等整備運営事業をはじめとしたエリアの魅力向上に取り組むことで、射水ブランド推進の場及び市内観光への玄関口としての機能を高める。							
数値目標	項目名		単位	参考(R1)	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	道の駅利用者数(年間)		人	702,268	619,171	610,451	1,000,000		
※新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度を参考数値として表記しています。									
取組スケジュール				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
エリア内への宿泊施設誘致				誘致(済)	詳細協議・整備・開業				
民間活力を導入した道の駅新湊等の整備・運営				導入検討(済)	整備	開業・運営			
備考						狙う効果			
						☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上			
						☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化			
						☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任			
						☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上			
						☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	21	取組名	移住トータルサポート窓口の設置		所属名	観光まちづくり課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		移住検討者が希望する暮らし方に合わせた住まいや仕事について、ワンストップで相談等を受け付け、円滑な移住につながっている。						
現状と課題		移住相談者に対して本市の特徴等について案内しているが、希望する暮らし方の実現に向けて民間事業者に即座につなぐことができないなど具体的な検討までに時間を要している。そのため、本市への移住機会を逃すことのない対応が必要である。						
課題解決に向けた取組		移住検討者のニーズに応じて民間事業者と連携し、本市への訪問や移住・定住を促す情報発信、住まいや仕事などの移住相談、移住後の定着支援などを一貫して行う窓口を設置する。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	移住相談窓口や支援制度を活用した市外からの移住者数(年間)		人	87	198	150		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
移住に向けたトータルサポートができる窓口の設置			検討		実施			
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上			
					☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化			
					☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任			
					☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上			
					☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	22	取組名	除雪業務の効率化の推進			所属名	道路課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		市内全体の除雪の効率化が進み、市民生活や地域経済活動が保たれている。							
現状と課題		効率的な除雪業務を図るため、令和3年度から県に合わせ除雪のグループ化(※)を検討しており、令和4年度に試験運用を行ったところ、幹線道路レベルでの運用であれば、県道の除雪を行う県と概ね相違なく出動できることが確認できた。 今後は、グループ化による除雪業者の負担増や業者間同士の連絡体制の構築、除雪経費の増加等の課題を整理し、市内全域の除雪のグループ化実施について検討していく必要がある。 (※)複数の除雪業者でグループを作り、除雪出動の判断材料の収集、出動の連絡体制を業者側に委ねる。							
課題解決に向けた取組		幹線道路除雪グループ化については、令和5年度から継続実施していく。また、市内全域にグループ化を拡大した場合の課題解決について除雪業者と連携を密にし、検討していく。							
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	-		-	-	-	-			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
幹線道路除雪グループ化の実施									
市内全域の除雪グループ化の検討									
備考					狙う効果				
					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	23	取組名	主要体育館の在り方の検討		所属名	生涯学習・スポーツ課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			機能強化された拠点型体育館及び民間活力等の導入によりサービスが継続された体育館で市民がスポーツ活動に親しんでいる。					
現状と課題			主要体育館は市町村合併前に整備され、老朽化が進んでおり、人口規模に見合った適正な配置が求められている。このことから主要体育館を拠点型の2館体制（新湊総合体育館と小杉総合体育センター）に集約するとともに、施設機能の充実を図る必要がある。さらに、廃止を予定する施設においても、民間活力等により機能継続の可能性を調査・検討するなど、市民ニーズに適したサービスを提供する必要がある。					
課題解決に向けた取組			廃止を予定している小杉体育館、大門総合体育館、大島体育館、下村体育館については、民間への譲渡を前提としつつ、地域に開放されたサービス提供の可能性を検討し、譲渡が困難な場合には解体も含めて検討する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
施設状況	施設名		建設年度	利用人数(R1)	利用人数(R5)	対R1比	管理形態	
	新湊総合体育館		昭和60年	113,042人	99,587人	▲ 11.9%	指定管理	
	小杉総合体育センター		平成4年	94,816人	70,412人	▲ 25.7%	指定管理	
	小杉体育館		昭和56年	101,787人	82,761人	▲ 18.7%	指定管理	
	大門総合体育館		昭和57年	79,883人	71,212人	▲ 10.9%	指定管理	
	大島体育館		平成12年	84,004人	78,710人	▲ 6.3%	指定管理	
	下村体育館		昭和60年	14,109人	13,488人	▲ 4.4%	指定管理	
※施設状況の利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度と比較しています。								
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
サービスの提供が継続できる手法についての検討			検討					
拠点型体育館の改修			検討		実施			
備考					狙う効果			
					☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	24	取組名	図書館の在り方の検討		所属名	生涯学習・スポーツ課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			公民連携により機能が充実した図書館で自由に学べ、探求心が満たされている。					
現状と課題			本市の図書館は、4館（中央図書館、新湊図書館、正力図書館、下村図書館）体制での運営となっているが、人口規模に応じた適正配置を求められることから、中央図書館と新湊図書館の2館（1本館1分館）体制とし集約化を進める必要がある。					
課題解決に向けた取組			個別施設計画に基づき、正力図書館は大門総合会館の在り方を踏まえながら検討し、下村図書館は地域と協議を行う。ソフト面においても、図書館業務の委託や電子図書館の導入について調査・検討を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
施設状況	施設名		建設年度	利用人数(R1)	利用人数(R5)	対R1比	管理形態	
	中央図書館		平成12年	62,330人	56,926人	▲ 8.7%	市直営	
	新湊図書館（新湊中央文化会館内）		昭和56年	23,741人	18,636人	▲ 21.5%	市直営	
	正力図書館（大門総合会館内）		昭和62年	15,171人	13,441人	▲ 11.4%	市直営	
	下村図書館（下村交流センター内）		平成15年	14,923人	11,719人	▲ 21.5%	市直営	
※施設状況の利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年度と比較しています。								
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
廃止する2館の在り方の検討			検討					
図書館業務の民間委託			検討		運用			
電子図書館の導入			検討		運用			
備考					狙う効果			
					☒経費の節減 ☐地域の活性化・魅力向上 ☐費用対効果の向上 ☐財政・経営の健全化 ☐事務効率の向上 ☐透明性の確保・市民への説明責任 ☒業務量の低減 ☐市民協働の推進 ☒サービスの向上 ☐公平性・公正性の確保 ☐職員の能力・組織力の向上			

取組項目 ③ DXの推進による市民生活満足度の向上

番号	25	取組名	スマート窓口の導入（行政手続のデジタル化）		所属名	未来創造課、市民課	区分	
あるべき姿（目指す姿）			市役所に行かなくても、いつでもどこからでも手続等が完了する。 市役所に来て負担を少なく手続が完了する。					
現状と課題			オンライン申請ができる業務が限られている。来庁して手続きする場合において、紙の申請書等に手書きしなければならず市民の負担感がある。また、窓口での申請書等の受付から、データを管理するシステム登録まで多くの時間と労力がかかっている。市民の負担を軽減し、利便性を向上させるとともに、職員の事務の効率化に取り組む必要がある。					
課題解決に向けた取組			LINE公式アカウントの中で、オンライン申請や情報検索が行える機能を追加する。 また、窓口でタブレット等を用いた受付事務（書かない窓口）を導入する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	オンライン申請可能な手続に対するオンライン化率		%	19.8	20.4	100		
	転入手続における所要時間（平均値）		分	55	44	40		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
オンライン申請の拡充			運用					
書かない窓口の導入（窓口支援システム）			構築（済）	運用				
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	26	取組名	D Xの推進による効率的な防災体制の強化		所属名	防災・資産管理課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			デジタル技術を効果的に活用した防災体制が構築され、市民の安全安心が確保されている。					
現状と課題			昨今、集中豪雨や台風等、自然災害が激甚化する中、人工知能（A I）などの技術を防災対策に効果的に活用し、災害に強いまちづくりを推進していく必要がある。					
課題解決に向けた取組			現在の災害対応の中に、デジタル技術を導入することで効率化や迅速化につながるものを検討・実施し、本市の防災体制を強化し、災害時における市民の安全安心を確保していく。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
デジタル技術を活用した防災対策の検討			検討					
デジタル技術を活用した防災対策の実施			順次実施					
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☒ サービスの向上			

番号	27	取組名	指定避難所への地震解錠キーボックス等の導入		所属名	防災・資産管理課	区分	新規 令和6年度
あるべき姿 (目指す姿)		災害発生等の緊急時に、速やかに避難できる体制が整っており、市民の安全安心が確保されている。						
現状と課題		避難所は、避難所開設担当職員（市職員）から連絡を受けた施設管理者（施設職員）が入口の鍵を解錠しているが、能登半島地震発生当時は、避難所に施設の職員が到着する前に避難者が避難してきた。災害発生等の緊急時に、避難者が速やかに避難所内に避難できる仕組みを整える必要がある。						
課題解決に向けた取組		災害発生等の緊急時には、避難者が避難所入口の解錠が行えるよう、コミュニティセンターや小中学校等の一次避難所に、スペアキーを入れておくキーボックスを導入する。 ・沿岸部の避難所…設定した震度を感じると扉が自動解錠する地震解錠キーボックス ・その他の避難所…ダイヤル錠により解錠するタイプのキーボックス						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	地震解錠キーボックス等を導入した避難所数		箇所	0	0	68		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
地震解錠キーボックス等の導入								
施設、地域、職員への説明・周知								
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上			
					☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化			
					☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任			
					☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上			
					☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	28	取組名	自治会・町内会活動における電子自治会アプリの活用促進		所属名	市民活躍・文化課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)			市民が豊かさを感じることができる自治運営が行われている。					
現状と課題			自治会・町内会は、地域コミュニティの根幹をなすものであり、地域社会における地域福祉や防災など、複雑化する課題への対応の必要性が高まっている。協働・共創のまちづくりを進める上でも、自治会・町内会は重要な役割を果たしていることから、自治運営の効率化等に取り組む必要がある。					
課題解決に向けた取組			電子自治会アプリ「結ネット」の導入を支援し、自治会・町内会活動の持続及び活性化、運営事務の効率化を図る。また、能登半島地震を踏まえ、災害時には安否確認ツールとして活用できること等も紹介しながら、普及啓発を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	電子自治会アプリ導入団体数		団体	31	34	90		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
アプリ導入の普及啓発			実施					
導入モデル団体の募集			実施					
備考				狙う効果				
「課題解決に向けた取組」に能登半島地震に関する記載を追加				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上				
				☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化				
				☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任				
				☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上				
				☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	29	取組名	持続可能な公共交通の実現			所属名	生活安全課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)			A I オンデマンドバス等の新しい交通システムが実現し、運行の効率化と利用者の利便性が向上している。						
現状と課題			現在運行しているコミュニティバス及びデマンドタクシーにおいては、サービス水準の維持・充実が求められる中、運行負担金の増加や一部路線における利用者の伸び悩み、また、公共交通事業の担い手負担も深刻化しており、運行の効率化と利便性の向上が必要である。						
課題解決に向けた取組			A I を活用し最適配車を行う新しい交通システムであるA I オンデマンドバス「のるーと射水」を導入する。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	コミュニティバス・デマンドタクシー・A I オンデマンドバス運行負担金(年間)		千円	272,545	301,409	250,000			
	コミュニティバス・デマンドタクシー・A I オンデマンドバス利用者数(年間)		人	359,294	380,659	450,000			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
A I オンデマンドバス「のるーと射水」実証運行、本格運行			【南東エリア】	実証運行(済)	本格運行(済)				
			【北東エリア】		実証運行	本格運行			
				他エリアでの運行に向け検討・実施					
備考					狙う効果				
現在の進捗状況に応じて、「取組スケジュール」を変更					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上				
					☒ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化				
					☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任				
					☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上				
					☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	30	取組名	生産性の向上を図る中小企業のデジタル化推進	所属名	商工企業立地課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	デジタル化を推進することで、業務の変革や省力化により人手不足の解消、新規事業が創出され、市内企業の経営革新が進んでいる。						
現状と課題	中小企業では、デジタル化に関するスキルを持った人材が不足しており、また、システムの導入に要する経費も多額であることから、外部資金や外部の専門人材を活用する必要がある。						
課題解決に向けた取組	「IT活用支援事業補助金」や「中小企業DX推進事業補助金」の周知・活用促進を通じて、中小企業のIT、IoTを活用した生産性の向上を支援する。 県立大学DX教育研究センターや市内商工団体と連携しながらDXセミナーやDX個別相談会を開催し、中小企業の課題・ニーズを把握し、必要な支援策を継続的に検討・実施する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	IT、IoTを活用して生産性向上に取り組む事業者の割合	%	24.4	22.5	45.0		
	取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
補助事業、DX相談会及びセミナーの開催	実施						
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	31	取組名	デジタル技術の活用による空き家等の利活用促進	所属名	観光まちづくり課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	空き家等情報バンクを通じた成約が円滑に進められ、利活用数が増加している。						
現状と課題	空き家等情報バンクには、物件の外観、内観の一部や間取図を掲載しているが、実際には家財道具が残っているなどイメージと異なることもあり、検討に時間を要したり成約の妨げになったりしているため、利活用のイメージがしやすい見せ方が必要である。 また、媒介業者がバンクへの登録手続に必要な資料作成など時間を要し、登録希望者が登録を避けるケースがあるため、手続方法を改善する必要がある。						
課題解決に向けた取組	事前に物件のVR内覧ができるサービスを導入し、家財道具が見えないように画像処理するなど利用する際のイメージがしやすいように空き家等情報バンクのサイトに掲載する。 また、不動産業者と連携し、不動産情報サイトへの物件の登録作業と併せて、市への登録申込ができるように調整する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	空き家等情報バンクに掲載された物件等の利活用数(年間)	件	39	23	80		
	取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
不動産業者と連携したバンク登録手続の効率化	検討(済)	実施					
VR内覧サービスの導入	検討	実施					
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	32	取組名	I C T教育の一層の推進			所属名	学校教育課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		I C T機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現し、次代を担う資質・能力を持った児童生徒が育成されている。							
現状と課題		G I G Aスクール構想の下、整備されたI C T環境を活用しI C T教育を推進している。これらの環境をより一層効果的に活用し、児童生徒の学力向上、教育環境の充実に努めていく必要がある。							
課題解決に向けた取組		I C T教育推進における調査・研究を進め、学校・家庭双方でのI C T活用を推進する。							
数値 目標	項目名			単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－			－	－	－	－		
取組スケジュール				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
I C T教育推進における調査・研究				実施					
I C Tを活用した教育の実施				順次実施					
プログラミング教育の推進				順次実施					
備考					狙う効果				
					☐ 経費の節減 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☒ サービスの向上				

基本方針 2 効率的で効果的な行財政運営

取組項目 ① 市役所DXを含む事務事業の効率化・適正化

番号	33	取組名	多様な働き方を実現するテレワーク制度の見直し		所属名	人事課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		テレワークがごく当たり前の働き方として捉えられ、場所に捉われない柔軟な働き方が実現されている。						
現状と課題		令和3年5月からテレワークを本格実施してきたが、主に新型コロナウイルス感染症対策を意識したものであり、ワーク・ライフ・バランスの推進としての利用は少ない。育児や介護等に携わる職員をはじめ、希望する職員が柔軟に利用できる制度設計とする必要がある。						
課題解決に向けた取組		テレワークの申請方法や、利用期間、利用時間帯の選択肢の拡充など、制度設計の見直しの検討を行う。 <u>また、庁内の業務端末・ネットワークの更新に合わせ、テレワークの利用場所を拡充する。</u>						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	テレワーク制度利用者数（年間延べ人数）		人	143	123	400		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
テレワーク制度の見直しの検討、運用			検討		運用			
テレワーク制度の周知・利用促進					周知・利用促進			
セキュリティ面の課題解決の検討			検討					
備考					狙う効果			
更	「課題解決に向けた取組」を利用場所の拡充に関する記載に変更 「取組スケジュール」に制度の周知・利用促進を追加				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	34	取組名	市役所DXの推進に伴う業務改革（BPR）の実施	所属名	未来創造課	区分	
あるべき姿（目指す姿）	効果的に業務改革が行われ、政策的業務に注力できる時間が創出され、市民サービスの向上につながっている。						
現状と課題	市役所DXやペーパーレス化を推進しつつ、業務の最適化を図るには、今までの紙ベース（アナログ）の業務プロセスをデジタルベースの業務プロセスに見直しを行うことが必要である。						
課題解決に向けた取組	市役所内業務のデジタル化に併せて、業務プロセスの可視化・見直しを行い、効率的かつ効果的な業務フローに改善し、業務改善、効率化につなげる。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	—	—	—	—	—		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
方針、方向性及び見直し内容の検討		検討					
業務プロセスの見直しの実施		順次実施					
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上			

番号	35	取組名	RPA利活用の推進	所属名	未来創造課	区分	
あるべき姿（目指す姿）	RPAを活用し定型業務の自動化を行い、職員が政策的業務に注力している。						
現状と課題	令和2年度からRPAの導入を開始し、順調に対象業務を拡充させている。政策的業務に注力できるよう、デジタル技術を活用して更なる業務効率化を図る必要がある。						
課題解決に向けた取組	AI-OCRとの連携によるRPA対象業務範囲の拡充や、他市町村との共同利用を推進し、運用経費の削減も行いながら、庁内業務の効率化を図る。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	RPA利活用業務数	業務	16	18	26		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
RPA利活用の検討		検討					
RPA利活用の推進		運用					
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	36	取組名	I o T利活用の推進		所属名	未来創造課	区分			
あるべき姿 (目指す姿)		現場に行かなくてもリアルタイムなデータ取得により、迅速かつ的確な対応を行い、市民サービスの向上が図られている。								
現状と課題		デジタル技術を活用して排水路の水位観測などの状況把握を行い、業務の効率化に取り組んでいる。今後も課題解決につながる事業を洗い出し、効率化を進める必要がある。								
課題解決に向けた取組		デジタル技術を活用した常時観測により、異常を速やかに検知し、効率よく迅速な対応を行える環境を整備する。								
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率			
	I o T利活用業務数		業務	6	6	11				
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度			
I o T利活用の検討			検討							
I o T利活用の推進			運用							
備考					狙う効果					
					☐ 経費の節減				☐ 地域の活性化・魅力向上	
					☒ 費用対効果の向上				☐ 財政・経営の健全化	
					☒ 事務効率の向上				☐ 透明性の確保・市民への説明責任	
					☐ 業務量の低減				☐ 市民協働の推進	☒ サービスの向上
					☐ 公平性・公正性の確保				☐ 職員の能力・組織力の向上	

番号	37	取組名	オープンデータの拡充		所属名	未来創造課	区分		
あるべき姿 (目指す姿)		市が持つデータを民間等に提供し、有効に活用されることで地域課題等の解決につながっている。							
現状と課題		市が持つデータの一部をオープンデータとして提供しているが、データが増えるにつれ管理や検索が難しくなっているため、利用者が必要な情報を取得しやすい環境を整備する必要がある。							
課題解決に向けた取組		オープンデータカタログサイトを構築し、検索・利用しやすい形で管理を行う。 県が構築を予定するデータ連携基盤にオープンデータを提供し、企業や大学、市民等が有効に活用できる環境を整える。							
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	オープンデータの提供数		データ項目	98	93	150			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
カタログサイトの構築			構築(済)						
オープンデータの拡充				運用					
備考				狙う効果					
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☒ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上					

番号	38	取組名	自治体情報システムの標準化・共通化		所属名	未来創造課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			全国の自治体と同じ仕様に基づいた情報システムを利用し、国の施策に迅速に対応できている。					
現状と課題			県内市町村では、自治体情報システムの共同利用を行っており、経費の削減とサービスの充実に取り組んでいるが、全国的には、自治体ごとに違ったシステムを利用している。そのため、給付金等の国の施策に対し、迅速に対応ができておらず、見直しが必要となっている。					
課題解決に向けた取組			国の仕様に基づいた自治体情報システムを、県内市町村共同で効率的に調達を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
標準準拠システムの調査			検討（済）					
標準準拠システムの調達・構築					調達・構築			
標準準拠システムの運用							運用	
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

(※)Fit&Gap分析…Fit「適合」とGap「かい離」。システム導入にパッケージソフトなどを用いる場合、パッケージが備える機能とユーザー側の業務プロセスがマッチしているかどうかを細かく調べること。

番号	39	取組名	補助金の適正な運用			所属名	未来創造課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			公平かつ適正で透明性のある補助金制度が運用されている。						
現状と課題			令和4年度に全市的な補助金の見直しの統一基準となる「補助金適正化に関するガイドライン」を策定したことから、ガイドラインに基づく補助金の見直しを実施する必要がある。						
課題解決に向けた取組			市単独補助金を検証し、3年間の見直し期間の間に見直しを行い、市HPにて公表する。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	見直しを行った市単独補助金の割合		%	－	－	100			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
補助金の見直し			実施						
補助金の検証・見直し内容等の公表			検証・公表(済)			検証・公表			
備考					狙う効果				
					☐ 経費の節減 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☒ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☒ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☐ サービスの向上				

番号	40	取組名	使用料・手数料の適正化に関する計画的な見直し		所属名	未来創造課、公共施設マネジメント推進課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			使用料・手数料が、統一的で明確な基準で算定されている。					
現状と課題			使用料・手数料の適正化に関する基本方針（平成30年9月）に基づき、受益と負担の適正化を図っており、原則として4年ごとにその見直しを行うこととしているが、新型コロナウイルス感染症によるニューノーマル等の社会環境の変化や、公共施設の再編等を考慮しながら使用料・手数料の見直しを検討する必要があるが生じている。					
課題解決に向けた取組			施設維持管理経費及び稼働率並びにサービス提供に要する経費等の推移を把握しながら、使用料・手数料の必要な見直しを行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
施設維持管理費及び稼働率、サービス提供に要する経費の把握			現状把握			現状把握		
使用料・手数料の見直し						検討	見直し	
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☒ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ 職員の能力・組織力の向上 ☐ サービスの向上				

番号	41	取組名	ペーパーレスの推進		所属名	総務課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			打合せや会議は、原則ペーパーレスとして行い、紙文書の起案を原則電子決裁にすることにより、効率的に事務が行われている。					
現状と課題			令和元年度からペーパーレス会議システムを導入しており、順調にペーパーレス会議の開催回数は増えているが、まだ紙資料を使用した会議や打合せが行われている。また、事務の効率化を図るために電子決裁機能のある文書管理システムの導入及び運用方法を考える必要がある。					
課題解決に向けた取組			ペーパーレス会議システムの利用促進について、周知徹底を図る。 電子決裁を行っている他自治体を参考にしつつ、電子決裁機能が付いている文書管理システムの効果的な運用方法を考え、導入する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	ペーパーレス会議の開催回数（年間）		回	257	348	400		
	決裁文書の電子決裁の割合		%	－	－	100		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
打合せ、会議のペーパーレスの促進			実施					
電子決裁機能付き文書管理システムの導入			検討（済）	導入	実施			
備考					狙う効果			
					☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	42	取組名	電子契約の導入	所属名	総務課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	電子契約により契約が締結され、発注側、受注側双方において効率的な契約事務が行われている。						
現状と課題	従来の紙ベースの契約書では、契約を取り交わす際、受注者側は、少なくとも2度担当課に訪問することとなり、移動に要する時間的・費用的負担が生じるとともに、職員においても事務負担が生じている。 解決手段となる電子契約の導入に当たっては、市側に新たな費用負担が発生することも踏まえて検討する必要がある。						
課題解決に向けた取組	県内自治体における電子契約システムの共同調達に向け、富山県情報システム共同利用推進協議会において協議、検討を進め、電子契約の導入を目指す。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	電子契約による契約締結の件数の割合 (随意契約を含む)	%	—	0	100		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
富山県情報システム共同利用推進協議会（電子契約システム部会）、庁内での検討・準備		検討・準備					
建設業協会等関連団体への周知・試行			試行・周知				
電子契約の導入・実施			導入	実施			
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	43	取組名	事務事業における温室効果ガス排出量の削減	所属名	環境課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、事務事業におけるあらゆる地球温暖化対策の取組が定着して実施されている。(令和12年度時点)						
現状と課題	近年、世界各地で地球温暖化が原因とされる異常気象や自然災害が多発している中、本市においては令和5年2月に「射水市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、5月には射水市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定した。2050年カーボンニュートラルの実現に向けた具体的な取組の推進が必要である。						
課題解決に向けた取組	省エネルギー施策の推進、再生可能エネルギーの導入、電気自動車への更新や充電設備の導入、あらゆる事務事業における環境に配慮した取組を市が率先して実施し、市全体を牽引するとともに、温室効果ガス排出量の削減に取り組むことで、将来的なエネルギーコストの抑制につなげる。						
数値目標	項目名	単位	当初(R3)	実績(R4)	目標値(R12)	達成率	
	事務事業における温室効果ガス排出量(年間)	t-CO ₂	31,366	31,130	22,982		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
公共施設における省エネルギー化の推進		実施					
市有施設への再生可能エネルギー導入の推進		実施					
公用車の電気自動車への更新及び充電設備の率先導入		実施					
あらゆる事務事業における環境に配慮した取組の実施		実施					
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	44	取組名	介護認定審査会資料のペーパーレス化		所属名	介護保険課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			介護認定審査会資料がペーパーレス化され効率的な審査会が運営されている。					
現状と課題			介護認定審査会は年間約190回開催しており、開催ごとの資料準備が職員の大きな負担となっている。タブレット端末等の導入費用等の課題はあるが、審査会資料のペーパーレス化（デジタル化）を実現し、職員の負担軽減や資源・経費の節減を図る必要がある。					
課題解決に向けた取組			ペーパーレス化に当たり、費用対効果を検証するとともに、審査会委員への合意形成や操作方法等の説明を行う。令和6年度以降、段階的に試験導入を行い効果を見極めながら、介護認定審査会資料のペーパーレス化を実現する。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	介護認定審査会年間開催数（ペーパーレス）（年間）		回	0	0	190		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
介護認定審査会資料のペーパーレス化			試行・検討 (済)	導入準備	実施			
備考				狙う効果				
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	45	取組名	教員の教育環境充実のための環境整備			所属名	学校教育課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		統合型校務支援システムをはじめとする教育環境を充実させ、データの効率的な活用と教員の長時間勤務の解消が図られている。							
現状と課題		統合型校務支援システムや1人1台端末の学習支援システム等のデータを統合して管理し、更なる有効活用と教員の負担軽減を図る必要がある。							
課題解決に向けた取組		整備後5年を経過する1人1台端末や校務支援システム等の更新に合わせ、県内他市町村と連携し、有効活用を行うための更新方針を検討し計画的にシステム整備を行う。							
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	－		－	－	－	－			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
1人1台端末等の更新			検討		実施				
校務支援システムの更新			検討		実施				
ネットワーク環境の更新			検討		実施				
備考					狙う効果				
					☒経費の節減 ☐費用対効果の向上 ☐事務効率の向上 ☒業務量の低減 ☐公平性・公正性の確保 ☐地域の活性化・魅力向上 ☐財政・経営の健全化 ☐透明性の確保・市民への説明責任 ☐市民協働の推進 ☐職員の能力・組織力の向上 ☒サービスの向上				

取組項目 ② 職員の能力向上と意識改革

番号	46	取組名	職員の能力・意欲の向上	所属名	人事課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	職員が、先見性や幅広い視野と高度な知識を持ち、生産性の向上を意識して職務を遂行している。						
現状と課題	高度化・多様化する市民ニーズへの対応やデジタル社会の実現への取組、本市の特色を高める創意工夫を凝らした政策・施策の展開などが求められており、職員の意識改革と能力開発・向上を目指した人材育成の強化が必要である。						
課題解決に向けた取組	職務遂行に必要な知識・技能を習得する専門研修を実施するほか、国、県、自治大学校等の高度な研修機関への派遣、D Xの推進を加速させられる人材の育成に取り組む。また、職員の自発的な学びに対する一層の支援に取り組む。						
数値 目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	専門研修の受講者数（年間延べ人数）	人	246	422	500		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
国、県等の研修機関への職員派遣		実施					
D Xの推進を加速させられる人材の育成		実施					
自己啓発の受講（利用）促進		受講メニューの拡充検討・周知・受講促進					
備考			狙う効果				
			☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上				

番号	47	取組名	人事評価制度の見直し			所属名	人事課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		人事評価を通じて職員の主体的な職務遂行の促進や組織マネジメントの向上、効果的な人材育成等の推進が図られている。							
現状と課題		これまでも①職員の主体的な職務遂行の促進や組織マネジメントの向上 ②効果的な人材育成の推進 ③能力・実績に基づく人事管理の実現を目的に人事評価を実施しているが、より効果的な人事評価制度への見直しが必要である。							
課題解決に向けた取組		人事評価制度を見直し、人事評価シートの改変や管理職の評価スキルの平準化、評価結果のフィードバックの徹底などに取り組む。							
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	－		－	－	－	－			
取組スケジュール			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度		
人事評価制度の見直し			検討（済）	見直し	運用				
評価者研修の実施					実施				
備考					狙う効果				
令和６年度に制度の見直しを行い、令和７年度後期から新制度で運用する取組スケジュールに変更					☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上				

番号	48	取組名	時間外勤務時間の縮減	所属名	人事課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		各職員それぞれに合ったワーク・ライフ・バランスが実現されている。					
現状と課題		所属によっては慢性的に時間外勤務が発生し、その時間数が高止まりしている状況が続いており、職員のメンタルヘルス等への影響が懸念されることに加え、能登半島地震の影響により、時間外勤務時間数が増加傾向にあることから、縮減に向けた対策が必要である。					
課題解決に向けた取組		特定の職員への過重な負担とならないよう業務配分等を見直し、時間外勤務時間の縮減につながるメリハリのある人員配置の検討を行う。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率
	職員一人当たりの時間外勤務時間数(年間)		時間	79.2	111.0 (91.9)	60以下	
※実績の()内は、能登半島地震対応分を除いた実績値							
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
出退勤管理システムの運用			導入(済)	運用			
各所属での業務配分等の見直し				見直し・運用			
適正な人員配置の検討			検討・運用				
備考				狙う効果			
「現状と課題」に能登半島地震に関する記載を追加				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上			

取組項目 ③ 適正な職員定数と様々な課題に柔軟に対応できる組織運営

番号	49	取組名	組織体制の充実・強化		所属名	人事課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			時代の変化や市の重要施策の取組方針に合わせ、効率的な組織体制となっている。					
現状と課題			時代の変化や市の重要施策の取組方針に合わせ、随時組織を見直しながら組織体制の維持に努めている。引き続き、限られた職員数の中で、多様化・高度化する住民ニーズに対応するため、より効率的に業務を行える体制づくりや組織横断的な連携強化が必要である。					
課題解決に向けた取組			所属長からの人事ヒアリングを通じて各課の現状把握等を行いながら、柔軟に組織体制の見直しを行っていく。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	－		－	－	－	－		
取組スケジュール			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	
組織体制の見直し			順次実施					
備考					狙う効果			
					☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☒ 職員の能力・組織力の向上 ☐ サービスの向上			

番号	50	取組名	適正な職員数の管理	所属名	人事課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			質の高いサービスの提供に向け、適正な職員数で組織運営ができています。				
現状と課題			定員適正化計画に基づき職員数の適正管理に取り組んできた。引き続き真に行政で実施すべき事業（業務）の明確化による民間委託やデジタル技術を活用した業務効率化等に一層取り組みつつ、業務遂行に必要な職員数を見極めていく必要がある。				
課題解決に向けた取組			定年延長に加え、多様化・高度化する市民ニーズへの対応等を踏まえ、令和7年度からの5年間で計画期間とする新たな定員適正化計画を策定し、適正な職員数を管理していく。				
数値 目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R11)	達成率
	職員数（消防・病院を除く）		人	594	603	638	
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
定員適正化計画の策定			策定（済）				
適正な職員数の管理				実施			
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上			

番号	51	取組名	職員給与の適正管理			所属名	人事課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		職員給与の適正管理により、職員の意欲・能力が存分に発揮され組織が活性化している。							
現状と課題		職員給与については、国の取扱いを基本とし、適正に運用している。また、勤務実績等に基づく人事評価結果も給与に反映させている。 地方公務員法に規定する情勢適応の原則のもとで、県や他の地方公共団体の状況を考慮しながら、職員給与を適正に管理していく必要がある。							
課題解決に向けた取組		給与制度の運用に当たっては、職員の意欲・能力を引き出すために人事評価結果を的確に給与へ反映させるとともに、毎年度の人事院勧告や、県や他の地方公共団体の状況等を考慮しながら、職員給与の適正な管理に努める。							
数値 目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	—		—	—	—	—			
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
人事評価結果の給与への反映									
職員給与の適正な管理									
備考				狙う効果					
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 職員の能力・組織力の向上					

基本方針 3 健全な財政基盤の堅持

取組項目 ① 自主財源の確保及び創出

番号	52	取組名	企業版ふるさと納税制度の活用	所属名	政策推進課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	射水市の取組に多くの企業が賛同し、応援（寄附）している。						
現状と課題	第3次総合計画と合わせてとりまとめた財政見通しでは、将来の歳入不足が見込まれ、基金繰入金により収支の均衡を図ることとしている。 持続可能なまちづくりを進めていくための財源確保の手法の一つとして、「企業版ふるさと納税制度（地方創生応援税制）」を活用し、歳入不足の解消を図る必要がある。						
課題解決に向けた取組	国のホームページに本市の地方創生の取組を掲載するほか、市ホームページに寄附募集事業を掲載するなど、様々な手法で寄附対象事業をPRする。 また、地方創生に資する新たな寄附対象事業の拡充を図り「射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への位置付け（改訂）を行うとともに、民間連携も視野に入れ、射水市に対する企業の関心を高めて寄附へつなげる手法を検討する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	—	—	—	—	—		
	取組スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
	ホームページ等でのPR・企業への周知	随時実施					
	まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂	随時実施					
	寄附拡大につなげる手法の検討	随時実施					
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	53	取組名	有料広告収入等の独自財源の確保	所属名	財政課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	様々な媒体を有料広告の対象とし、財源の獲得に努めるとともに、ネーミングライツにより安定的な財源の確保を図り、持続可能な施設運営と市民サービスの向上に取り組んでいる。						
現状と課題	一般財源の確保が困難になる中、有料広告等の掲載媒体を増やし、財源の確保を図るとともに、民間活力を活用し、市民サービスの向上につながる事業にも取り組んでいく必要がある。						
課題解決に向けた取組	民間活力を活用し、新たな有料広告等の獲得、既存の広告媒体の継続に努め、市民サービスの向上につなげる。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	—	—	—	—	—		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
有料広告収入等独自財源の確保		継続して実施					
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	54	取組名	円滑な財政運営に向けた基金の積立及び市債の繰上償還	所属名	財政課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)	財政負担の軽減を図るため市債の繰上償還を行うとともに、基金依存度の高まりを抑制しつつ、一定規模の基金残高を維持し、健全な財政運営が維持されている。						
現状と課題	高齢化の進行などに伴う社会保障費の増嵩に加え、大型の施設整備に係る市債の償還、DXの推進等の積極的な投資により、今後も多くの財政負担が生じることが予想されるため、持続可能な財政運営に向け、これまで以上に財源の確保や財政負担の軽減に取り組む必要がある。						
課題解決に向けた取組	持続可能な財政運営に向け、計画的な基金への積立及び市債の繰上償還を行う。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	—	—	—	—	—		
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
基金への積立及び市債の繰上償還		継続して実施					
備考				狙う効果			
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	55	取組名	未利用市有地の有効活用		所属名	防災・資産管理課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		未利用市有地を適切に売却、貸付けし自主財源を確保するとともに、有効活用による地域活性化につながっている。						
現状と課題		公売や貸付、民間提案事業等により普通財産の利活用に努めている。物件ごとに様々な課題を抱えており、利活用するには相応の時間と費用を要する。						
課題解決に向けた取組		サウンディング調査等により、個々の物件について精査するとともに、優先順位をつけて調査を行い、土地の利活用を図る。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	普通財産（市有地）累計売却額 ※法定外公共物を除く		千円	—	224,609	300,000		
	普通財産（市有地）累計貸付額 ※法定外公共物を除く		千円	—	6,631	32,500		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
未利用市有地の売却			継続して実施					
未利用市有地の貸付			継続して実施					
備考					狙う効果			
令和5年度の実績を踏まえ、「普通財産（市有地）累計売却額」の「数値目標」を再設定					☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	56	取組名	企業立地の促進		所属名	商工企業立地課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			市内の企業団地やサテライトオフィスに多様な企業が進出し、活発な経済活動が行われている。また、時代の変化に対応した新たな企業団地の整備が進められている。					
現状と課題			従来の大規模企業用地に加え、多様なライフスタイルや働き方への対応が可能な小規模オフィス（サテライトオフィス等）への企業立地の促進を図っていくほか、年々変化する企業ニーズを的確に捉えた、新たな事業用地の整備を検討する必要がある。					
課題解決に向けた取組			企業ニーズや社会情勢に応じた助成制度の見直し等を行いながら、既存の企業団地の早期完売に向けた積極的な企業誘致活動を行うとともに、新たな企業団地や経済活動の場の整備・充実を図る。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	市内既存企業団地の分譲率		%	98.1	97.1	100		
	サテライトオフィス等の設置数		箇所	0	1	3		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
沖塚原企業団地の売却			実施					
新たな事業用地の検討、整備等				検討		実施		
企業誘致（サテライトオフィス含む）			実施					
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 事務効率の向上 ☐ 業務量の低減 ☐ 公平性・公正性の確保 ☒ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

取組項目 ② 公営企業の経営健全化

番号	57	取組名	水道事業ビジョンの見直しによる健全な事業運営		所属名	上下水道業務課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		将来にわたり持続可能な水道事業運営が実施されている。						
現状と課題		人口減少と節水器具の普及により料金収入が減少する一方、県企業局からの送水管更新に伴う受水費や電力料金の高騰等により費用が増加すると見込まれるため、その対策を確立する必要がある。						
課題解決に向けた取組		広域連携による効率化協議を推進するなど費用の縮減に努めるとともに、市民への情報周知を強化する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	—	—	—	—	—			
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
現行ビジョンの見直し		検討	見直し案策定	公表	運営及び検証			
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	58	取組名	下水道事業ビジョンの見直しによる健全な事業運営		所属名	上下水道業務課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)		将来にわたり持続可能な下水道事業運営が実施されている。						
現状と課題		人口減少と節水器具の普及により使用料収入が減少する一方、電力料金の高騰等により費用が増加傾向にあるため、その対策を確立する必要がある。						
課題解決に向けた取組		流域下水道への接続等により維持管理の効率化を図るとともに、市民への情報周知を強化する。						
数値目標	項目名	単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率		
	—	—	—	—	—			
取組スケジュール		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
現行ビジョンの見直し		検討	見直し案策定	公表	運営及び検証			
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	59	取組名	電子式水道メーターのスマート化	所属名	上下水道業務課	区分	新規 令和6年度
あるべき姿 (目指す姿)		水道メーターのスマート化が実現し、自動検針による事務の効率化やサービスの向上が実現できている。					
現状と課題		水道事業においては、水需要の低下や検針員確保の困難化、さらには、水道施設や管路等の老朽化等が進行しており、将来にわたって健全かつ安定的な水道サービスを維持していくには、事業の最適化や効率化のさらなる取組が必要である。					
課題解決に向けた取組		導入時期や財源確保についての検討を行いながら、電子式水道メーターをスマート化し、検針業務の効率化・正確性の向上、漏水の早期発見による効率的な水運用及び使用状況の可視化による利用者サービスの向上等を図る。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率
	スマート化対応済の栓数		栓	—	0	900	
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
大口径水栓				導入			
集合住宅				検討		導入	
備考				狙う効果			
				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☒ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☒ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

番号	60	取組名	水道事業における配水管渠の耐震化率の向上		所属名	上水道工務課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			配水管渠の耐震化率が向上し、災害に強い水道事業が行われている。					
現状と課題			管路延長の35.5%（265km）を占める口径50mmの大半は硬質塩化ビニル管渠であり、非耐震管継手材料が布設されている。耐震化を推進するには、計画的に水道配水用ポリエチレン管の耐震管継手材料に切り替え、耐震化を推進することで、経営基盤を維持する必要がある。					
課題解決に向けた取組			水道配水用ポリエチレン管を規格導入し、耐震化率の向上を図る。					
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	ポリエチレン管整備率（口径50mm）		%	0.3	0.9	2.5		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
ポリエチレン管整備			随時実施					
備考				狙う効果				
				☐ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☐ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☒ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	61	取組名	汚水処理事業の広域化(処理場の統廃合)		所属名	下水道工務課	区分	一部変更
あるべき姿 (目指す姿)		農業集落排水処理区等の汚水処理施設(3処理場)を神通川左岸流域下水道へ統合し、施設を効率的に運営管理している。						
現状と課題		八講、白石及び白城台処理区の汚水処理施設については、供用開始後30年前後経過しており、施設の老朽化に伴い、既設設備の更新や大規模な修繕が必要である。						
課題解決に向けた取組		下水道施設の広域化により効率的な運営管理を図るため、汚水を神通川左岸流域下水道へ接続替えし、汚水処理施設の統廃合に取り組む。						
数値目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	統廃合した汚水処理施設数		処理場	0	0	3		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
接続切替の実施設業務								
八講処理区の接続切替工事								
白石・白城台処理区の接続切替工事								
備考				狙う効果				
能登半島地震の影響により、各接続切替工事の実施時期を変更				☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上				
				☒ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化				
				☒ 事務効率の向上 ☒ 透明性の確保・市民への説明責任				
				☒ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上				
				☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上				

番号	62	取組名	病院事業における総合的な経営改善策の推進		所属名	市民病院経営管理課	区分	
あるべき姿 (目指す姿)			経営改善に取り組み、経常収支比率が100%を超えている。					
現状と課題			新型コロナ関連の特別な収益等により経常収支比率は100%を超えているが、段階的に縮小されていくことが見込まれる。今後は医業収益の向上を図ることで経常収支比率100%を維持し、将来的に持続可能な医療提供体制を確保するための病院経営に努める必要がある。					
課題解決に向けた取組			令和5年度に策定する公立病院経営強化プラン（計画期間：令和6～9年度）の中で持続可能な医療提供体制の確保に向けた経営強化策を示すとともに、現在タスク管理として取り組んでいる入院患者数増加に係る取組を推進する。					
数値 目標	項目名		単位	当初(R4)	実績(R5)	目標値(R9)	達成率	
	病床稼働率（一般病棟）		%	67.6	69.9	75.0		
取組スケジュール			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
公立病院経営強化プランの策定			策定（済）			見直し		
他医療機関からの紹介患者受入			継続して実施					
救急医療体制の充実			継続して実施					
地域包括ケア病棟の効率的な運用			継続して実施					
備考					狙う効果			
					☒ 経費の節減 ☐ 地域の活性化・魅力向上 ☐ 費用対効果の向上 ☒ 財政・経営の健全化 ☐ 事務効率の向上 ☐ 透明性の確保・市民への説明責任 ☐ 業務量の低減 ☐ 市民協働の推進 ☐ サービスの向上 ☐ 公平性・公正性の確保 ☐ 職員の能力・組織力の向上			

※本プラン推進期間中に完了した取組

年度	取組名
令和5年度	地域包括支援センターの機能強化
	大門コミュニティセンター及び大門農村環境改善センターの民間活力による有効活用
	救急薬品市民交流プラザ等における予約管理システムの導入
	学校体育館のスマートロックの導入
	電子入札の導入

休日の学校部活動の地域移行モデル事業について

1 令和6年度モデル部活動

	バレーボール	美術	ソフトボール
開始予定	9月	9月	10月
会場	各中学校		
参加申込数	92人/113人 (参加率 81.4%)	63人/148人 (参加率 42.6%)	受付中/31人 (参加率—%)
(2部活動計)	(261人中155人(参加率 59.4%)) R6.8.14時点		

2 令和6年度の地域部活動の活動状況（新1年生加入時点）

競技	実施団体	活動人数		指導者数	会場数	活動方法
		学校	地域			
バスケットボール	射水市バスケットボール協会	187	47 (25.1%)	9	2	男子(3校)女子(5校)がそれぞれ1会場で活動
剣道	射水市剣道連盟	97	88 (90.7%)	23	4	新湊地区(3校)、小杉地区、小杉南地区、大門地区の4会場で活動
柔道	射水市柔道連盟	50	41 (82.0%)	7	1	男子(4校)、女子(2校)が1会場に集まり活動
ハンドボール	射水市ハンドボール協会	70	62 (88.6%)	7	3	男子(1校)、女子(2校)がそれぞれ1会場で活動
卓球	射水市卓球協会	157	63 (40.1%)	8	1	男子(4校)、女子(3校)が1会場に集まり活動
ソフトテニス	射水市ソフトテニス協会	279	117 (41.9%)	4	1	男子(5校)、女子(5校)が1会場に集まり活動
合 計		840	418 (49.8%)	58	12	

※ ()内は、学校部活動参加人数に対する地域部活動参加人数の割合

3 その他

上記以外の部活動（運動部：9、文化部：7）の休日の地域移行については、関係団体等と移行内容等について調整中である。令和7年度末までに全ての休日の学校部活動を地域移行することとしており、引き続き、射水市学校部活動在り方検討会において持続可能な活動環境の整備に向けて検討していく。